

令和5年度

全国学力・学習状況調査結果について

令和5年7月

山口県教育庁義務教育課

目 次

1	調査の概要	—————	P	1
2	教科に関する結果	—————	P	2
	(1) 全体の結果	・ ・ ・ ・ ・	P	2
	(2) 各教科の結果	・ ・ ・ ・ ・	P	2
	(3) 具体的な問題と解答状況	・ ・ ・ ・ ・	P	4
3	質問紙調査の結果	—————	P	24
	(1) 児童生徒質問紙	・ ・ ・ ・ ・	P	24
	(2) 学校質問紙	・ ・ ・ ・ ・	P	40
4	学力向上に向けた今後の取組	—————	P	56

1 調査の概要

(1) 目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査期日

令和5年4月18日（火）

※中学校英語については、「聞くこと」「書くこと」「読むこと」の調査が4月18日（火）に紙で、「話すこと」の調査が4月18日（火）～5月26日（金）の中で文部科学省が指定した日にオンラインで実施。

(3) 調査の方法

悉皆調査

(4) 調査を実施した学校数・児童生徒数

学 年	学 校 数	児 童 生 徒 数
小学校第6学年	公立小学校 266校 特別支援学校 3校 計 269校	児 童 10,097人
中学校第3学年	公立中学校 138校 中等教育学校 1校 特別支援学校 4校 計 143校	生 徒 9,833人

(5) 調査の内容

① 教科に関する調査（小学校…国語、算数 中学校…国語、数学、英語）

・調査問題では、下記1)と2)を一体的に問う。

- 1) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- 2) 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

ア 児童生徒に対する調査（児童生徒質問紙）

【小学校…59項目 中学校…72項目】

イ 学校に対する調査（学校質問紙）

【小学校…81項目 中学校…89項目】

2 教科に関する結果

(1) 全体の結果

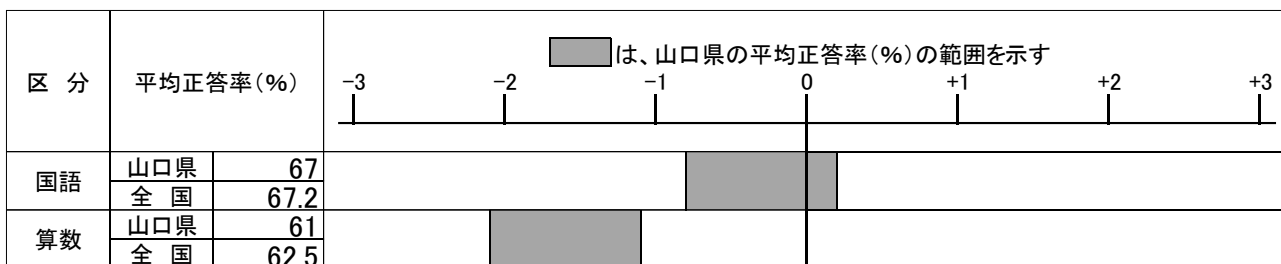
- 小学校では、国語は全国平均と同程度、算数は全国平均を下回るという結果であった。
- 中学校では、国語は全国平均と同程度、数学は全国平均を上回り、英語は全国平均を下回るという結果であった。

(2) 各教科の結果（全国と本県の平均正答数、平均正答率の比較）

※ 平成 29 年度から、都道府県等における各教科の平均正答率は整数値で提供されているため、全国平均との差を範囲で示している。

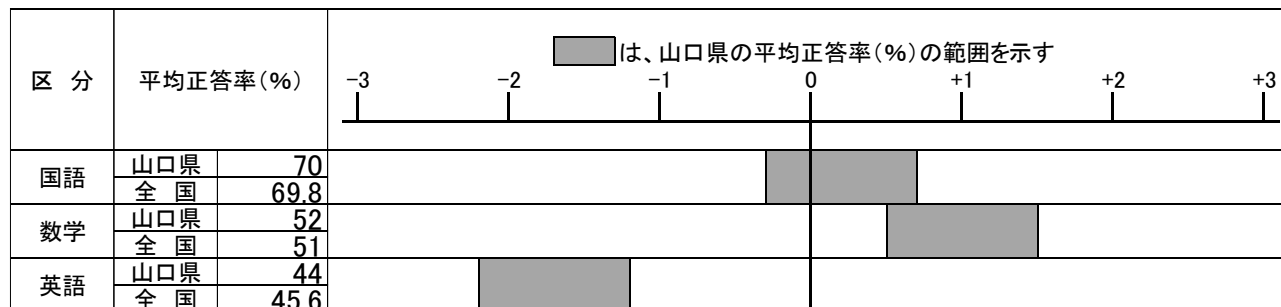
【小学校】

	平均正答数／設問数		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国 語	9.4／14	9.4／14	67	67.2
算 数	9.8／16	10.0／16	61	62.5



【中学校】

	平均正答数／設問数		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国 語	10.5／15	10.5／15	70	69.8
数 学	7.7／15	7.6／15	52	51.0
英 語	7.4／17	7.7／17	44	45.6



〔参考〕過去の調査での平均正答数と平均正答率

○令和4年度

小学校	平均正答数／設問数		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国 語	9.1／14	9.2／14	65	65.6
算 数	10.0／16	10.1／16	63	63.2
理 科	10.9／17	10.8／17	64	63.3

中学校	平均正答数／設問数		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国 語	9.8／14	9.7／14	70	69.0
数 学	7.2／16	7.2／16	52	51.4
理 科	10.4／21	10.4／21	49	49.3

○令和3年度

小学校	平均正答数／設問数		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国 語	9.0／14	9.1／14	64	64.7
算 数	11.1／16	11.2／16	69	70.2

中学校	平均正答数／設問数		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国 語	9.1／14	9.0／14	65	64.6
数 学	9.2／16	9.1／16	58	57.2

※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う臨時休業等の影響により中止

○平成31年度

小学校	平均正答数／設問数		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国語	9.5／14	8.9／14	68	63.8
算数	9.4／14	9.3／14	67	66.6

中学校	平均正答数／設問数		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国語	7.4／10	7.3／10	74	72.8
数学	9.8／16	9.6／16	61	59.8
英語	11.6／21	11.8／21	55	56.0

(3) - ① 具体的な問題と解答状況 - 小学校国語 -

○相当数の児童ができている点

○ 「送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うこと」について、正答率が高い。

1 三 (2)

雑草の量について、農家の田んぼとイくらべてみました。

- 1 比らべて
- 2 比べて
- 3 比て

(2) その番号を書きましよう。 部イを書き直したものととして適切なものを、次の1から3までの中から一つ選んで。

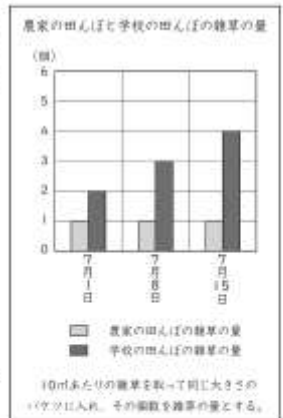
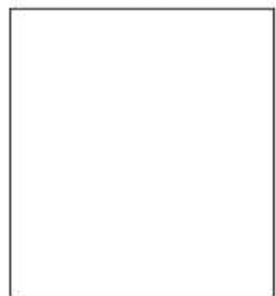
【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、たくさんのお米をしょうかくすることができました。しょうかくまでに、いくつかの問題がありました。その中でも特に伝えたい問題点とその解決方法について説明します。

5月下じゅんに学校の田んぼになえを植えました。6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、ア いがいに雑草が生えてきて、とてもこまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼとイくらべてみました。ウ きかんは7月1日から15日までです。

右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。



このようなことに取り組み、9月の下じゅんにお米をしょうかくすることができました。

【正答】 1 三 (2) 2

	正答率
山口県	93.4%
全国	93.1%

○ 「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること」について、正答率が高い。

2 -

【資料2】運動について書かれたパンフレットのページ

運動で健康な体をつくろう！

運動には、筋力や持久力などを高めるほかに、病気の抵抗力を高める効果もあります。また、運動によって気持ちのリフレッシュするなどの効果もあります。

どんな運動をするとういの？

運動をする際、自分に合った運動を選んで行うことが大切です。主な運動の種類には、下のように、軽いジョギングなどの持久力を高める運動や、腹筋運動などの筋力を高める運動があります。そのほかにも、体の柔らかさを高める運動や、たくみな動きを高める運動などがあります。

このような運動は日常生活の中にもあります。例えば、休み時間の外遊び、犬の散歩、階段の上り下り、荷物運びなどです。日常生活の中で体を動かす機会をつくると効果的です。

主に持久力を高める運動の例



軽いジョギング 縄とび(続けてとぶ)

主に筋力を高める運動の例



腹筋運動 胸立ててふせ

【資料1】運動について書かれた本の一部

運動は、体力の向上につながります。そのため、子供からお年寄りまで適宜に運動をすることが大切だと書かれています。

私たちが日々行っている運動には、いくつかの種類があります。例えば、体にたくさんの酸素を取り入れながら続けることで持久力を高める運動や、瞬間的に大きな力を出すことで筋肉の力を高める運動などです。

生活の中に自分が好きな運動を取り入れれば、続けて取り組むことができます。その際は、目的に応じた運動を選ぶとともに、健康状態や体力に合わせて自分のペースで行うことが大切です。

【2】

相田さんの学級では、健康に過ごすために、複数の文章を選んで読み、自分ができそうなことを考えてまとめることになりました。次は「相田さんの考え」と「相田さんが知りたいことを調べるために選んだ『資料1』」「資料2」です。これらをよく読んで、おどの問いに答えましょう。

【相田さんの考え】

ぼくは、運動の面から考えてみたい。運動をすると健康にどんないいことがあるのかな。



相田さん

- 1 運動の効果や種類
- 2 運動の回数や場所
- 3 運動の場所や種類
- 4 運動の効果や回数

「相田さんが選んだ『資料1』と『資料2』」に書かれている内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【正答】 2 - 1

	正答率
山口県	90.4%
全国	90.0%

●課題のみられる点

● 「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」について、課題が見られる。

1 二

【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、たくさんのお米をしょうかくすることができました。しょうかくまでに、いくつかの問題がありました。その中でも特に伝えたい問題点とその解決方法について説明します。

5月下旬に学校の田んぼに雑草を植えました。6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、アザミがいに雑草が生えてきて、とてもこまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼと比べてみました。つきかんは7月1日から15日です。

右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。

日	農家の田んぼの雑草の量	学校の田んぼの雑草の量
7月1日	10	10
7月8日	10	25
7月15日	10	45

10日あたりの雑草を測って同じ大きさの10センチ角の、その面積を雑草の量とします。

このようなことに取り組み、9月の下旬にお米をしょうかくすることができました。

二 川村さんは、選んだカードをもとに、次の「川村さんの文章」の問題点とその解決方法について書こうとしています。あなたが川村さんならどのように書きますか。おぼの条件に合わせて書きましょう。

- 【カード①】
6月24日
・思ったより学校の田んぼに雑草が生えてきた。
・このまま雑草が増えたら米のしょうかくにさくしょうするのではないかと心配だ。
- 【カード②】
6月30日
・雑草取りをしているが、農家の田んぼには見られないほど、雑草の量が増えてきた。
・どれくらい増えているのか雑草の量を調べる。
・調査方法 週に1回、農家の田んぼと学校の田んぼの雑草を取って、量をくらべる。
・調査 기간 7月1日～15日
- 【カード③】
7月19日
・学校の田んぼでは、雑草の量に対して雑草取りが追いついていないと考えられる。
・雑草の量と米のしょうかくの関係について農家の石山さんに話を聞きに行く。
- 【カード④】
7月20日
【農家の石山さんのお話】
・雑草に栄養をとられると、米のしょうかくが減る。
・雑草が多いと、いねが病気になることがある。
・農家は、さまざまな方法で雑草が生えないようにしている。
- 【カード⑤】
7月21日
【学校でできる解決方法】
・雑草取りの回数を増やす。
・雑草取りの人数を増やす。

「川村さんの考え」
雑草が増える問題が起きたけれど解決してよかったな。米作りのときに記録していたカードの中から選んだカードをもとに、米作りに興味のある人に向けて、問題点とその解決方法を書こう。

川村さん

1 川村さんは、学校の田んぼで取り組んだ米作りについて文章を書こうとしています。次の「川村さんの考え」と川村さんが選んだ「カード①」から「カード⑤」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【正答例】 1 二

グラフから分かるように、学校の田んぼでは雑草が増え続けていたため、雑草に栄養をとられてしょうかくが減ってしまうかもしれないという問題点がありました。そこで、雑草取りの回数と人数を増やすことにしました。(100字)

※上の用紙用紙は下書き用紙なので、使っても読めなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
※◆の印から書きましょう。どちら側で行を戻さないで、続けて書きましょう。

（条件）
○ 学校の米作りの問題点については、「川村さんの文章」のグラフ（農家の田んぼと学校の田んぼの雑草の量）と「カード①」のそれぞれから分かることを書くこと。
○ 問題点の解決方法については、「カード②」をもとにして書くこと。
○ 六十文字以上、百字以内にまとめて書くこと。

	正答率
山口県	26.7%
全国	26.7%

結果を踏まえて

【誤答の状況とそれに応じた解決の方法】

特徴的な誤答

○雑草をぬかないと、いねが病気になってしまったり、米のしゅうかく量が減ってしまったりするので、もっと雑草をぬく人をふやしたり、雑草をぬく期間をふやしたりして、雑草の数を減らしていきました。

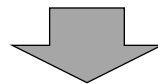


→学校の米作りの問題点について、【カード④】から分かることは書いているが、【川村さんの文章】のグラフから分かることが書かれていない。

○学校の米作りの問題点は、雑草の量が多いことだと思います。だから、その問題点を解決するためには雑草取りの回数を増やし、人数を増やせばいいと思いました。



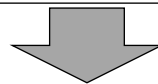
→学校の米作りの問題点について、【川村さんの文章】のグラフから分かることは書いているが、【カード④】から分かることが書かれていない。



このような誤答の子どもは…

米作りの問題点について、グラフか【カード④】のどちらか一方を取り上げて書いていることから、個々の資料の内容を捉えることはできている。

米作りの問題点について、グラフか【カード④】のどちらか一方しか取り上げていないことから、目的に応じて複数の資料を関連付けて読み取り、文章にまとめることに課題があると考えられる。



課題解決に向けて

【課題解決に役立つやまぐちっ子学習プリント】

小学校6年 やまぐちっ子プラス読むこと1

【授業改善の方策】

①複数の資料の関連性をつかませるために、各資料に、概要を表す短い言葉でのタイトルを付けさせることが考えられる。

(例)【カード④】は、「雑草が多いことによる影響」というタイトルが考えられる。そのことから、グラフと【カード④】との、「雑草の増え方—そのことによる影響」という関連性が見えてくる。

②複数の資料を関連付ける視点や関連付けたことによって分かったことのまとめ方は、関連付ける目的に応じて変わってくることから、資料を読む目的を明確にもたせることが大切である。

(例) 農家の米作りの工夫を捉える目的で、【カード④】とグラフを読むと、「雑草に対する農家の取組—そのことによる結果」という関連性が捉えられることから、目的に応じて資料の見え方が変わってくるのが分かる。

【学校・家庭・地域との連携】

複数の資料を関連付けて読むことは、多くの情報が溢れている実社会において重要な力であることから、国語科だけでなく、様々な教科等においても機会を捉えて指導していくことが重要である。

(3) -② 具体的な問題と解答状況 -小学校算数-

○相当数の児童ができている点

○ 「伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めること」について、正答率が高い。

1 (1)

1

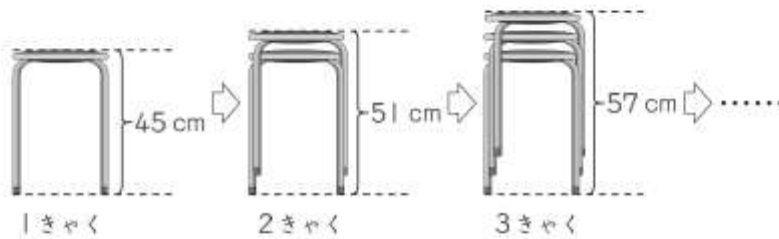
同じいすがたくさんあります。

(1) はるまさんたちは、いすをかたづけるために、下のように重ねています。



1きやくのいすの高さは、45 cm です。

下のようにいすを重ねていくと、高さが変わります。



いすの数と高さの関係を、下の表にまとめます。

いすの数 (きやく)	1	2	3	4	5
高さ (cm)	45	51	57	63	A

表の中の A にあてはまる数を書きましょう。

【正答】 1 (1) 69

	正答率
山口県	93.6%
全国	93.5%

○ 「一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすること」について、正答率が高い。

1 (4)

(4) いすを1列に50きやくずつ、40列並べるとすると、全部のいすの数は、 50×40 で求めることができます。

いすは全部で何きやくになりますか。

答えを書きましょう。

【正答】 1 (4) 2000

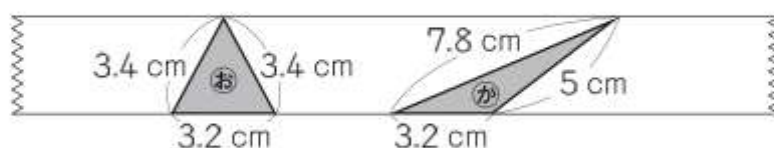
	正答率
山口県	81.6%
全 国	80.8%

●課題のみられる点

- 「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること」について、課題が見られる。

2 (4)

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊸と㊹の2つの三角形をつくります。



上の㊸と㊹の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。
 下の 1 から 4 までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。
 また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ㊸の面積のほうが大きい。
- 2 ㊹の面積のほうが大きい。
- 3 ㊸と㊹の面積は等しい。
- 4 ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

	正答率
山口県	18.2%
全 国	20.8%

【正答例】 2 (4)

3

三角形の面積は、底辺×高さ÷2で求めることができます。㊸と㊹の底辺は、どちらも3.2cmなので等しいです。㊸と㊹の高さは、テープのはばがどこも同じ長さなので等しいです。だから、㊸と㊹の面積は等しいです。

結果を踏まえて

【誤答の状況とそれに応じた解決の方法】

特徴的な誤答

○㊸の面積は、 $3.2 \times 3.4 \div 2 = 5.44$ で 5.44 m^2
○㊹の面積は、 $3.2 \times 7.8 \div 2 = 12.48$ で 12.48 m^2
だから、㊹の方が大きい。

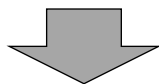


→高さにはならない部分の長さを高さとして捉え、実際に三角形の面積を求めることで面積の大きさを比較している。

○三角形の面積を求める公式は、底辺×高さ÷2です。しかし、この問題では、高さが書いていません。よって㊸と㊹の面積はこのままでは比べることはできません。



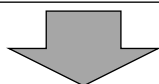
→与えられた条件では、底辺が同じであるものの、高さの具体的な数値が示されていないことを捉え、大きさが比較できないと判断している。



このような誤答の子どもは…

底辺×高さ÷2により、三角形の面積を求めることができることについては十分理解している。

三角形の高さに対する正しい認識や、底辺の長さが共通の三角形において、平行線の性質を捉えて面積の大小を判断することに課題があると考えられる。



課題解決に向けて

【課題解決に役立つやまぐちっ子学習プリント】

小学校5年 やまぐちっ子 DASH 「図形と面積」

【授業改善の方策】

三角形の底辺や高さや面積の関係を基に面積の大小を判断できるようにすることが重要である。授業においては、三角形の面積を比較する問題を取り上げ、底辺と高さの具体的な長さが分からない場合でも、底辺と高さがそれぞれ等しければ、三角形の面積は等しくなるということ、三角形の面積の公式をもとに判断できる機会をつくることが求められる。

【学校・家庭・地域の連携】

中学校2年で学習する「平行線と面積」にも関連する内容であることから、小中の連携体制を生かし、中学校数学科教員と連携して教材開発や指導のあり方を検討していくことも有効である。

(3) -③ 具体的な問題と解答状況 - 中学校国語一

○相当数の生徒ができている点

○ 「目的や場面にに応じて質問する内容を検討すること」について、正答率が高い。

1 -

『インタビューの趣意』

南 音楽学校の先生と申します。先日、インターネットで、星野さんの記事を見ました。今日は、星野さんの製品開発に対する思いについて、詳しくお聞きしたいと思います。よろしくお願ひします。

星野 ありがとうございます。

南 早速ですが、星野さんは、製品開発に当たり「安全性だけでなく、デザイン性や利便性も大事にしたい」とおっしゃっていましたが、そのように考えるのはどうしてですか。

星野 はい、お客様の安全を守るための配慮をするのは当然なのですが、それだけでは不十分で、お客様のニーズに応じた多様なデザインや、世代を問わず手軽に使用できる利便性を求められるからです。お客様向けのインターネット調査などからも、そういった声が多く聞かれます。例えば、電気ケトルは切るのはずみで開ける可動性があります。だからといって、開れにくい状態にすることはできません。デザイン性も損なわれず、かつ、私たちが問題としている電気ケトルは、デザイン性にも配慮しつつも、開けたときに熱湯がこぼれにくい構造になっています。このように、安全性とデザイン性との両立を図っています。

南 なるほど、いまいみえんことを想定して作る関係にしているんですね。

星野 そのとおりです。この製品を開発するにあたって、お客様のことを第一に考えています。製品を使用してくださるお客様の期待に応えるために、弊方は精進します。

南 お客様のことを大切にする思いが分かりました。貴社の置ける時、先ほど、電気ケトルの安全性とデザイン性の両立についてお話を伺いましたが、安全性と利便性との両立についても、具体的に教えてください。

星野 例えば、利便性との両立という点では、手動に切れることも機械するお客様も多くいらっしゃるのですが、電気ケトルの軽量化にも努めています。しかし、軽くするために構造を簡素化すると、手に触れる部分に熱が伝わりやすくなるので、安全性が損なわれることがあります。毎日、こうした課題の解決に頭を悩ませています。

製品開発にかける思い

進化製品を開発するにあたって、最も大事にしているのは、安全性です。お客様からお寄りまで、どの年代の方も安心して使用できる製品の開発を常に心がけています。しかし、安全性だけでなく、デザイン性や利便性も大事にしたいと考えています。

現在、私は、電気ケトルの開発を担当しています。電気ケトルは、容量が小さく、使う分だけ短時間でお湯を沸かせるのが特徴で、弊社の製品の中でも御好評をいただいているものの一つです。安全性を徹ちつつ、デザイン性や利便性も兼ね備えた製品を開発するのは難しいことですが、よりよい製品をお届けできるように努力を重ねています。

製品開発部 星野 主任

〈インタビューの目的〉

星野さんの製品開発に対する思いを聞き、自分の考えの参考にする。

〈インタビューを通して知りたいこと〉

①「安全性だけでなく、デザイン性や利便性も大事にしたい」と考えるのはどうしてか。

②「安全性を徹ちつつ、デザイン性や利便性も兼ね備えた製品を開発するのは難しい」とあるが、具体的にどのような難しさがあるのか。

③ 社会で働く上で何が大切だと思うか。

1 南さんは、総合的な学習の時間に、「社会で働く上で大切なことを考える」という学習に取り組んでいました。インターネットで情報を集めていた南さんは、進化製品を開発している星野さんの記事に興味を持ち、会社を訪問して星野さんにインタビューをしました。次の『インタビューの趣意』『インタビューの目的』『インタビューの場』を読んで、あとの問いに答えなさい。

『インタビューの趣意』

『インタビューの目的に準備したメモ』

1 インタビューの目的に沿った質問をするために、知りたいことを整理していた。

2 質問の内容を相手に明確に伝えるために、言葉遣いや話し方を確認していた。

3 見直しをもって決を進めるために、質問に対する相手の答えを予想していた。

4 話題を広げるために、インタビューの目的とは異なる質問を用意していた。

南 インタビューの場面に合わせた質問をするために、知りたいことを整理していた。

星野 よいフィードバックはお客様が送ってくださるものです。そういふとき、私は時間を取って話し合うようにしています。年代や経験が異なるメンバーで話し合っている、一人だけで考えていたときには思いつかなかったアイデアが生み出されます。自分とは異なる考えや見方を生かすことは、学校で勉強でも仕事でも大切なことではないでしょうか。

南 確かに、そのように、働く上で大切にしていることはあります。

星野 自分や自分の会社にも行っていることです。一つのことにこだわらず、新たな発想は生まれます。様々な意見を受け入れ、自分自身も成長しています。質問は以上です。

南 ありがとうございました。

【正答例】 1 - 1

	正答率
山口県	88.1%
全国	87.5%

●課題のみられる点

- 「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること」について、課題が見られる。

4 三

4 石井さんは、国語の時間で、「竹取物語」を読みました。そのあと、学校図書館で、現代語で書かれた「竹取物語」を見つけてきました。これは、「言葉で語った『竹取物語』の一場」の論文です。これを読んで、ふたつを比べてください。

『言葉で語った『竹取物語』の一場』
倉本 文
今は昔、竹取の翁といふ名のありけり。野山にまじりて竹をとりつづ。よろづのことに使ひけり。名をば、さぬきの翁と名をいひける。その竹の中に、もろなる竹を二節ありける。あやしがりて、斧で切る。踏の中流りたり。それを見れば、三寸ばかりある人、いとうつくしうてあり。

現代語訳
今ではもう昔のことだが、竹取の翁という者がいた。野山に分け入って竹を取っては、いろいろなことに使っていた。名前を、さぬきの翁のことだった。その竹の中に、根もとの太る竹が一本あった。不思議に思つて、近寄つて見ると、竹の中が光っている。それを見れば、三寸ほどの人が、とてもかわいらしい様子で居っている。

『学校図書館でも見つけた『竹取物語』の一場』
『原典』『竹取物語』による。
『現代語訳』『竹取物語』による。

三 『学校図書館でも見つけた『竹取物語』の一場』は、古典の作品である『竹取物語』に、作者の名前（中七五）を加えて現代語で書いたものである。どこがどのよりに工夫されているかを考えなれ。『言葉で語った『竹取物語』の一場』が、学校図書館で見つけた『竹取物語』の一場の書き直しである。二本読みしつたり行間に書き加えたりしてよい。

※ 左の枠は、手書きにしてください。欄外は必ず新書用紙に書きなさい。

【正答例】 4 三

- ・「よろづのこと」を「笠、竿、杖、籠、筆、箱、筒、箸。」というように具体的に書いて、翁が竹でどのようなものを作っていたのかが分かるようにしている。
- ・「手なれた仕事だ。」と付け加えることで、竹を割る翁の様子を読者が想像できるようにしている。

	正答率
山口県	50.6%
全 国	50.0%

結果を踏まえて

【誤答の状況とそれに応じた解決の方法】

特徴的な誤答

○【授業で読んだ「竹取物語」の一部】の〈現代語訳〉では、「竹を取っては、いろいろなことに使っていた」としか書かれていないが、【学校図書館で見つけた「竹取物語」の一部】では、「笠、竿、箒、籠、筆、箱、筒、箸」など具体的なものを書いている。



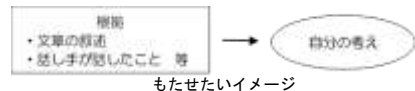
→二つの文章の表現方法の違いを具体的に挙げて書いているが、表現の効果について、自分が考えたことは書かれていない。

このような誤答の子どもは…

二つの文章の表現方法の違いを捉えられていることから、表現されている内容だけでなく、表現方法に着目して文章を読むことができている。

二つの文章の表現方法の違いの指摘にとどまり、自分の考えが述べられていないことから、文章の叙述を引用して取り上げることが自分の考えであるという誤った認識をしており、「根拠を基に自分の考えを書く」ということが、具体的にどのようなことなのかイメージをもてていない可能性がある。

※大問1四でも同様に、インタビューで分かったことを述べるにとどまり、自分の考えを書けていない様子が見られた。



課題解決に向けて

【課題解決に役立つやまぐちっ子学習プリント】

中学校2年 話す・聞く④ステップ4 中学校2年 書くステップ2、3

【授業改善の方策】

例えば、下に示した例文について

- ・「根拠（文章の叙述）」と「自分の考え」が書かれている部分がどこにあたるのかを区別させる。
- ・「根拠（文章の叙述）」と「自分の考え」とをつなぐために、どのような言葉（～ということから、～ということを基に、～により 等）が使われているのかを捉えさせる。

そうすることで、「根拠」と「自分の考え」とは別のものであることや、「根拠を基に自分の考えを書く」ことのイメージをつかませることができると考えられる。

「根拠（叙述）」部
 【授業で読んだ「竹取物語」の一部】では、「三寸ばかりなる人」と書いてあるが、
 【学校図書館で見つけた「竹取物語」の一部】では、「手のひらに乗るような小さな女の子」と書いてある。このことから、どのような人物なのかが具体的に分かるように書かれていると感じる。 つなく言葉部 「自分の考え」部

【学校・家庭・地域との連携】

例えば、日記指導においても、出来事だけでなく感じたことを書かせる等、小学校低学年段階より、「根拠」と「自分の考え」等の一文一文の役割を認識しながら読んだり書いたりする経験を積ませることが大切である。

(3) -④ 具体的な問題と解答状況 -中学校数学-

○相当数の生徒ができている点

○ 「数と整式の乗法の計算」について、正答率が高い。

2

$12\left(\frac{x}{4} + \frac{y}{6}\right)$ を計算しなさい。

【正答】 2 $3x + 2y$

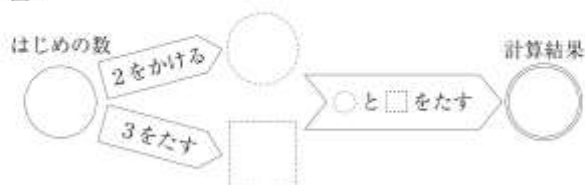
	正答率
山口県	81.2%
全 国	80.5%

○ 「問題場面における考察の対象を明確に捉えること」について、正答率が高い。

6 (1)

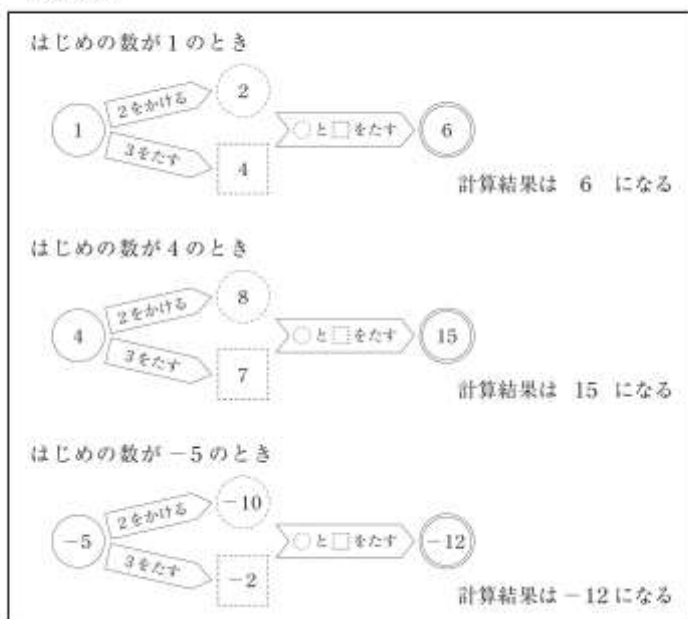
6 次の図1のように、はじめの数として○に整数を入れて計算し、計算結果を求めます。

図1



夏希さんは、はじめの数として○にいろいろな整数を入れて計算しています。例えば、はじめの数が1、4、-5のときは、それぞれ下のような計算になります。

計算の例



(1) はじめの数が11のとき、計算結果を求めなさい。

【正答】 6 (1) 36

	正答率
山口県	89.6%
全国	88.9%

●課題のみられる点

- 「構想に基づいて証明すること」について、課題が見られる。

9 (1)

9 次の図1のように、 $CA = CB$ の二等辺三角形 ABC と、 $\triangle ABC \cong \triangle DEF$ となるような $\triangle DEF$ の2つの三角形を厚紙で作ります。

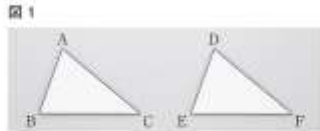
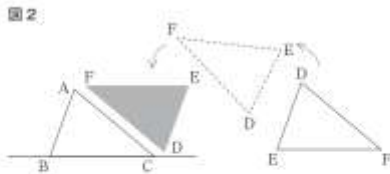


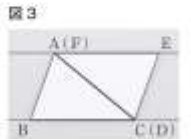
図1の2つの三角形の厚紙を使って、次の方法1と方法2でそれぞれ2つの直線をひきます。

方法1

◇ $\triangle ABC$ を置いて、直線 BC をひく。そして、図2のように、 $\triangle DEF$ を回して、点 F を点 A に、点 D を点 C に重ねる。

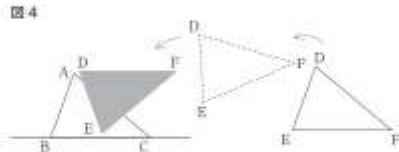


◇ 図3のように、点 A と点 F が重なった点を A として、直線 AE をひく。また、点 C と点 D が重なった点を C とする。

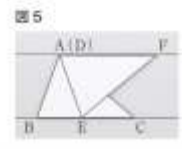


方法2

◇ $\triangle ABC$ を置いて、直線 BC をひく。そして、図4のように、 $\triangle DEF$ を回して、点 D を点 A に、点 E を直線 BC 上に置く。ただし、点 E は点 B と重ならないように置く。



◇ 図5のように、点 A と点 D が重なった点を A として、直線 AF をひく。



鎌倉さんは、方法1の直線 BC と直線 AE 、方法2の直線 BC と直線 AF がそれぞれ平行になるのではないかと考え、調べることにしました。

次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) 鎌倉さんは、前ページの方法1の直線 BC と直線 AE が平行になるかどうかを調べるために、右の図6をかきました。図6の $\triangle ABC$ と $\triangle CEA$ は、それぞれ $CA = CB$ 、 $AC = AE$ で、 $\triangle ABC \cong \triangle CEA$ です。

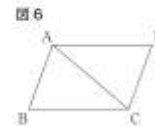


図6において、 $BC \parallel AE$ であることは、すでにわかっている $\triangle ABC \cong \triangle CEA$ をもとにして、対応角または錯角が等しいことを示すことで証明できます。 $BC \parallel AE$ であることを証明しなさい。

【正答例】 9 (1)

$\triangle ABC \cong \triangle CEA$ より、合同な図形の対応する角は等しいから、
 $\angle BCA = \angle EAC$
 よって、錯角が等しいから、
 $BC \parallel AE$

	正答率
山口県	29.4%
全国	32.1%

結果を踏まえて

【誤答の状況とそれに応じた解決の方法】

特徴的な誤答

○ $\triangle ABC \equiv \triangle CEA$ より、 $\angle BCA = \angle EAC$
四角形 ABCD は平行四辺形だから
 $BC \parallel AE$

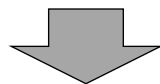


→ 結論部の「 $BC \parallel AE$ 」について記述しているものの、成り立たないことや証明していないことを根拠として用いている。

○ $\triangle ABC \equiv \triangle CEA$ より、平行線の性質から
 $\angle BCA = \angle EAC$
錯角が等しいので、 $BC \parallel AE$



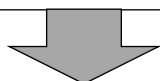
→ 結論部の「 $BC \parallel AE$ 」について記述しているものの、結論（平行であること）により示せる事柄を根拠として用いている。



このような誤答の子どもは…

証明の結論部の記述方法や基本的な平面図形の性質については理解ができていると考えられる。

三角形の合同を用いて事柄が成り立つことを証明する技能や、証明を進める上での仮定や結論の使い方に対する理解について課題があると考えられる。



課題解決に向けて

【課題解決に役立つやまぐちっ子学習プリント】

中学校2年 やまぐちっ子プラス 図形の調べ方

【授業改善の方策】

事柄が成り立つことを証明することができるようにするためには、構想を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導することが大切である。授業においては、与えられた条件から、事柄を導く過程を考えるといった構想を立てる活動を取り入れることが考えられる。

【学校・家庭・地域の連携】

証明の問題については、多くの生徒が苦手意識をもっている内容であるため、長期休業中の補充学習において、やまぐちっ子学習プリントの該当問題を地域の方と取り組む等、コミュニティ・スクールの連携・協働体制を生かした取組が有効である。

(3) -⑤ 具体的な問題と解答状況 - 中学校英語 -

○相当数の生徒ができている点

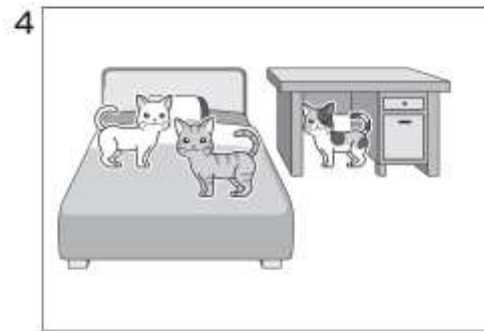
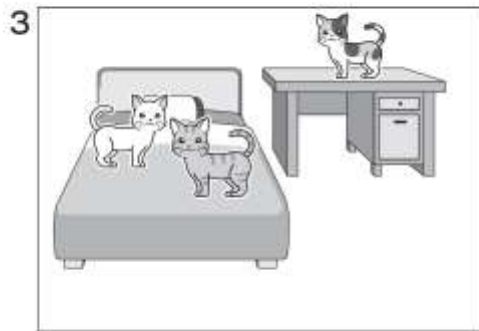
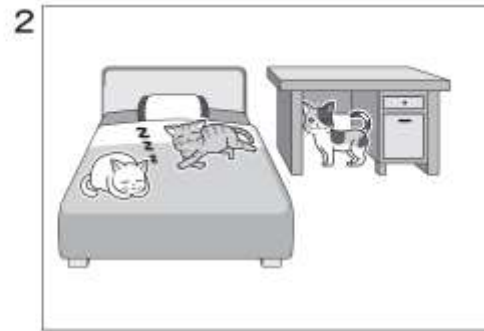
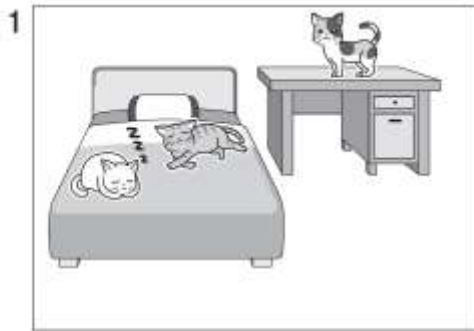
○ 「情報を正確に聞き取ること」について、正答率が高い。

1 (1)

1 (放送問題)

話される英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を、それぞれ1から4までの中から1つ選びなさい。

(1)



(1) Look at this picture. There are three cats. You can see a cat under the desk. And the other cats are on the bed. They are sleeping.

【正答】 1 (1) 2

※ 英文が流れる回数…1回
※ 解答時間…15秒

	正答率
山口県	80.2%
全国	79.0%


△全国平均正答率を上回っているものの課題のみられる点

△ 「社会的な話題について、短い文章の要点を捉えること」について、全国平均正答率よりも上回っているものの、正答率が60%を下回っており課題がみられる。

8 (1)

8 英語の授業で、ブラウン先生が作成した文章が学習者用端末に送信されました。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

Today we see many kinds of robots around us. They are helpful. When I went shopping, I saw a robot and it was working as a guide. I



could talk to the robot in English or other languages. At some restaurants, robots bring our meals. They can carry many plates at one time. Thanks to them, the restaurant doesn't need a lot of staff members. We have robot pets, too. We can have them even if we are busy with work or we live in small apartments. People will have fun if they live with robot pets. As I explained, robots can change many people's lives for the better. Do you agree with me? Why or why not?

(1) ブラウン先生が最も伝えたいことを、下の1から4までの中から1つ選びなさい。

- 1 We see many kinds of robots around us.
- 2 I saw a robot and it was working as a guide.
- 3 People will have fun if they live with robot pets.
- 4 Robots can change many people's lives for the better.

【正答】 8 (1) 4


	正答率
山口県	57.4%
全 国	56.1%

●課題のみられる点

- 「短い文章の要点を捉えて、考えとその理由を書くこと」について、課題が見られる。

8 (2)

8 英語の授業で、ブラウン先生が作成した文章が学習者用端末に送信されました。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

Today we see many kinds of robots around us. They are helpful. When I went shopping, I saw a robot and it was working as a guide. I  could talk to the robot in English or other languages. At some restaurants, robots bring our meals. They can carry many plates at one time. Thanks to them, the restaurant doesn't need a lot of staff members. We have robot pets, too. We can have them even if we are busy with work or we live in small apartments. People will have fun if they live with robot pets. As I explained, robots can change many people's lives for the better. Do you agree with me? Why or why not?

(2) ブラウン先生の質問に対するあなたの考えと理由を英語で簡潔に書きなさい。

【正答例】 8 (2)

I agree with you. If robots do our housework, we will have more time.

I don't agree with you because people will lose their job.

	正答率
山口県	16.4%
全国	19.5%

結果を踏まえて

【誤答の状況とそれに応じた解決の方法】

特徴的な誤答

① I don't agree with you. We losts a job.

→ 語彙や語形に誤りがある。



② I agree with you.

→ 書き手の意見に対する自分の考えのみを書いている。

③ I can enjoy every day with robots.

→ 与えられた話題について自分の考えのみを書いている。



④ Teacher is nice.

→ 先生について書いている。

このような誤答の子どもは…

①文章の内容を把握し、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書いているが、正しい語や文法事項等を理解して文章を書くことに課題があると考えられる。

②書き手の意見に対する自分の考えを書いているが、その理由を書くことに課題があると考えられる。

③書き手の意見に対する自分の考えを書くことに課題が見られ、与えられた話題について自分の考えのみを書いている。

④文章の内容を把握することができていない、または自分の考えとその理由を示すために必要な表現が身に付いていないと考えられる。

課題解決に向けて

【課題解決に役立つやまぐちっ子学習プリント】

中学校2年 やまぐちっ子 DASH 「読む・書く」②

【授業改善の方策】

読むことから書くことにつながる**技能統合型**の言語活動を工夫したい。また、**目的・場面・状況**に応じた言語活動を行う中で、**正確さ**を意識しながら基本的な語や文法事項等を身に付けさせたい。

【学校・家庭・地域の連携】

既習事項を日々の言語活動の中で繰り返し使うことで定着を図ることができするため、ALTや地域に住んでいる外国人、外国人旅行者等との交流を通して、コミュニケーション力を高めたい。

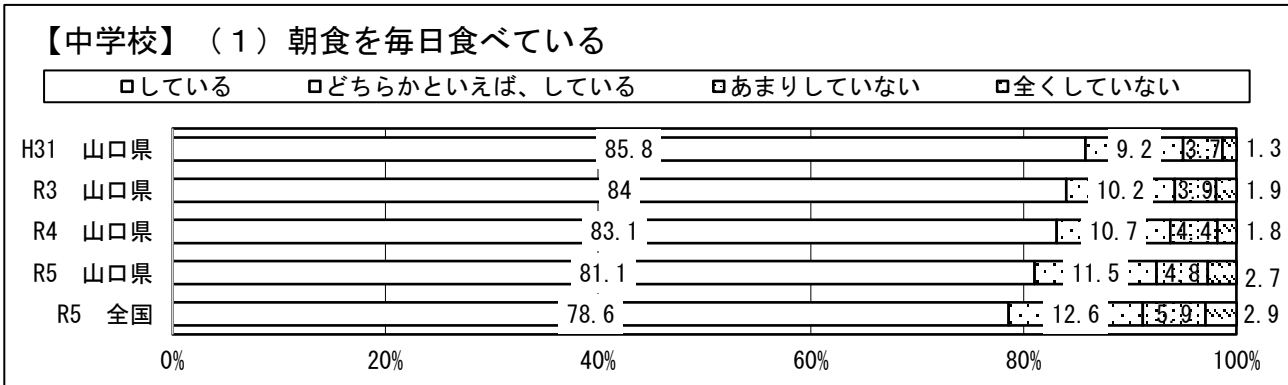
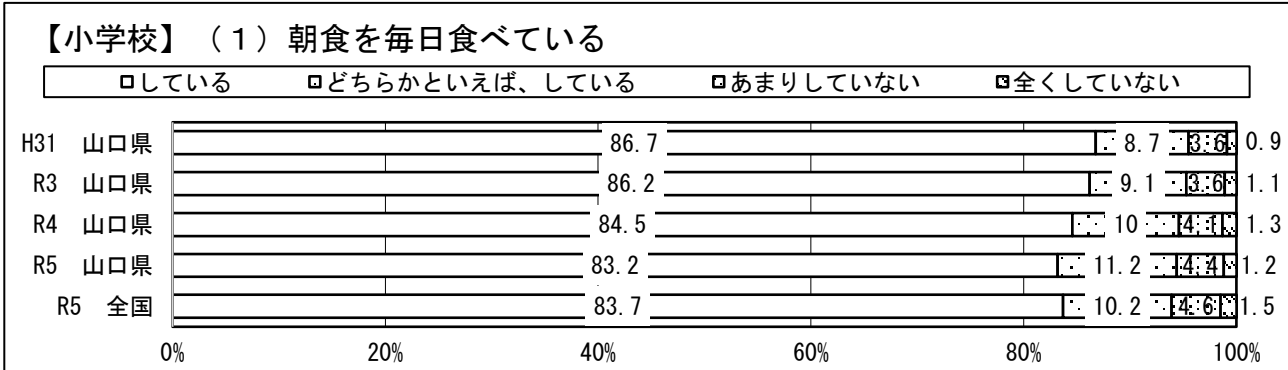
3 質問紙調査の結果

(1) 児童生徒質問紙

① 子どもの意識・生活習慣

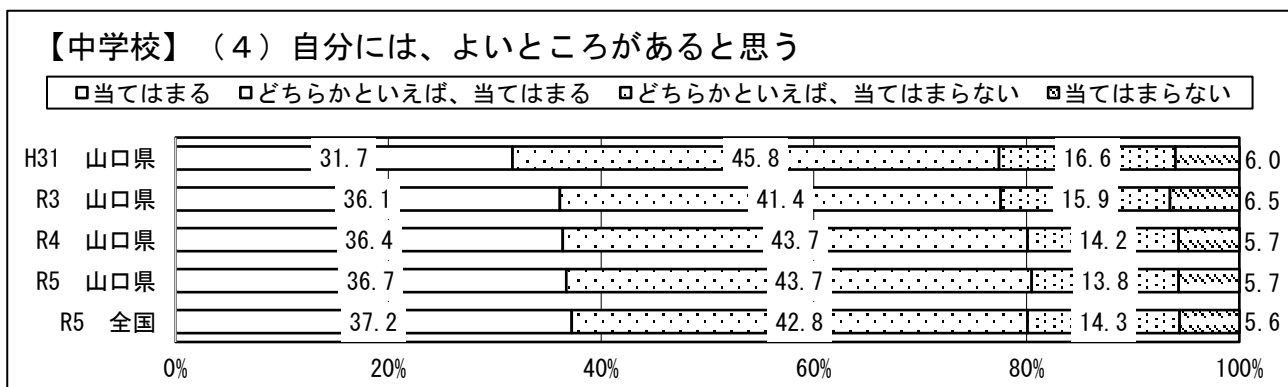
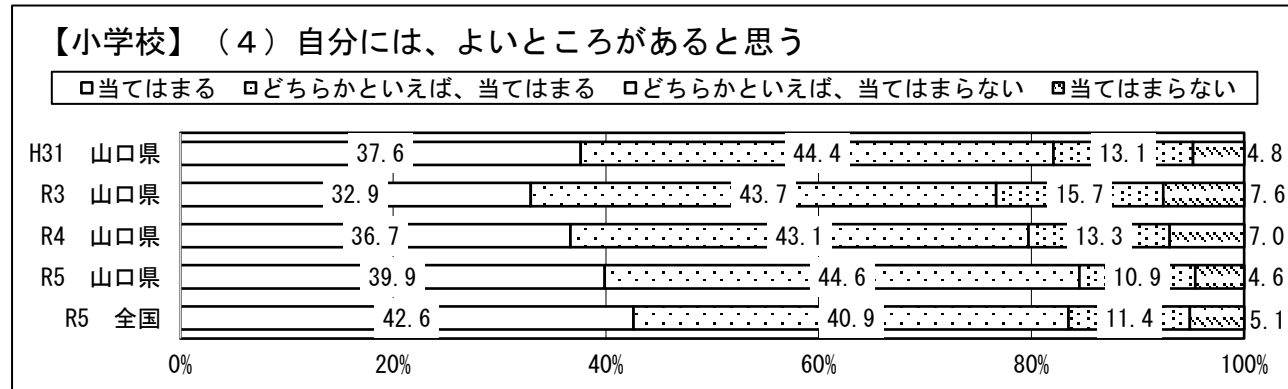
ア 朝食を毎日食べている

● 朝食を毎日食べていると回答した児童生徒の割合は、年々減少している。



イ 自分にはよいところがある

○ 自分にはよいところがあると思うと肯定的に回答した児童生徒の割合は、前年度に比べて増加している。

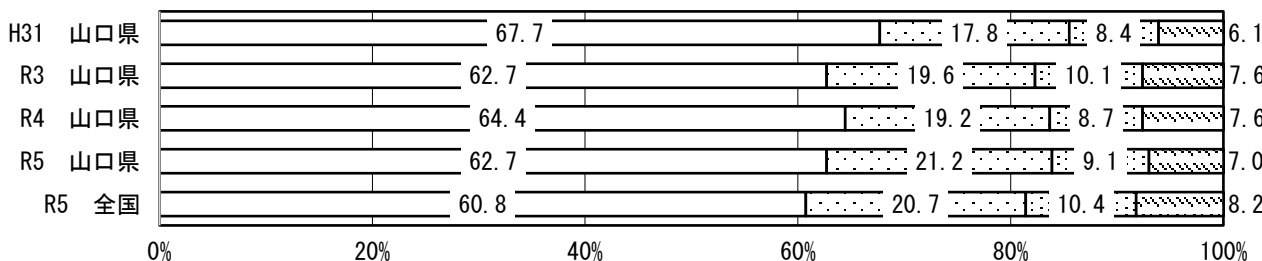


ウ 将来の夢や目標を持っている

- 将来の夢や目標を持っていると回答している児童生徒の割合は、全国と比べて高いものの、減少傾向がみられる。

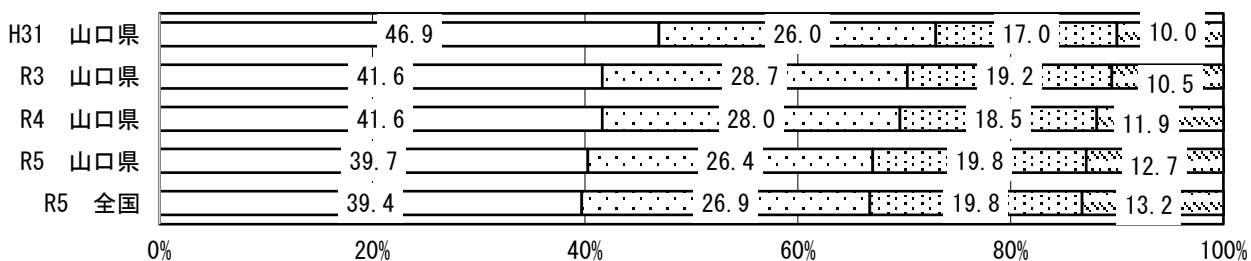
【小学校】（7）将来の夢や目標を持っている

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



【中学校】（7）将来の夢や目標を持っている

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

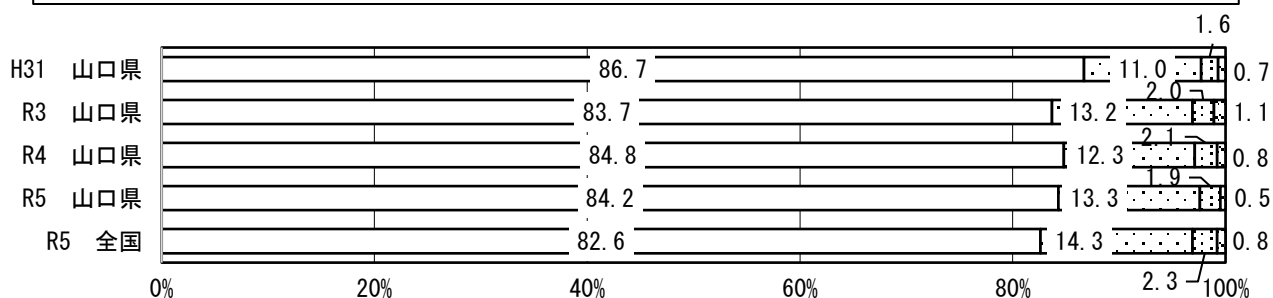


エ いじめは絶対にいけない

- いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うと回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

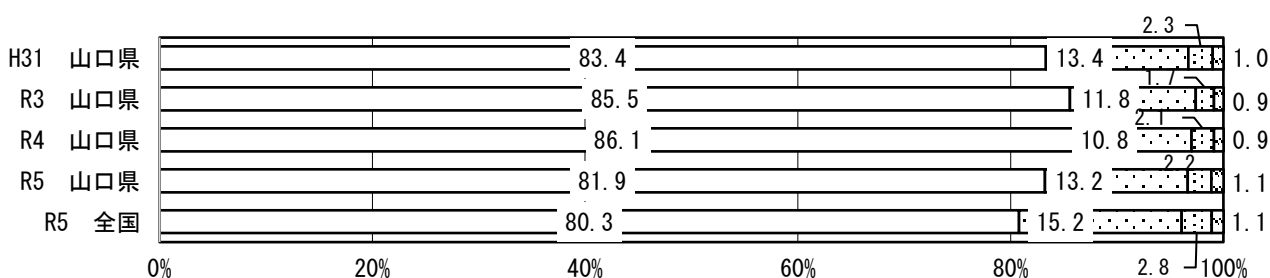
【小学校】（9）いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



【中学校】（9）いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う

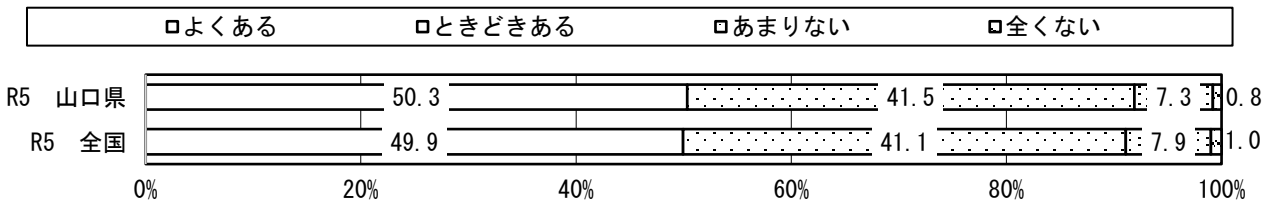
□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



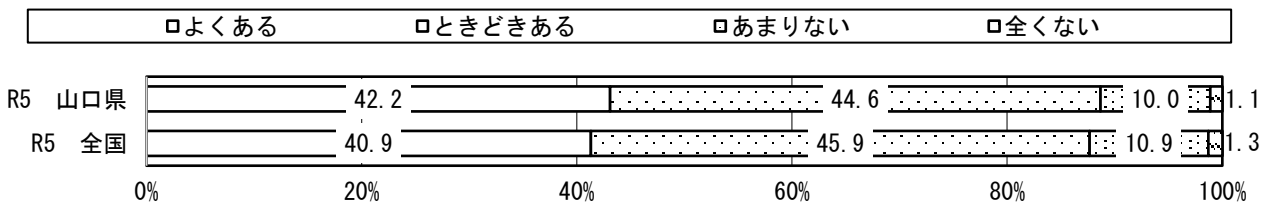
オ 普段の生活の中で、幸せな気持ちになる

○ 幸せな気持ちになると肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国とほぼ同程度である。

【小学校】（１５）普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



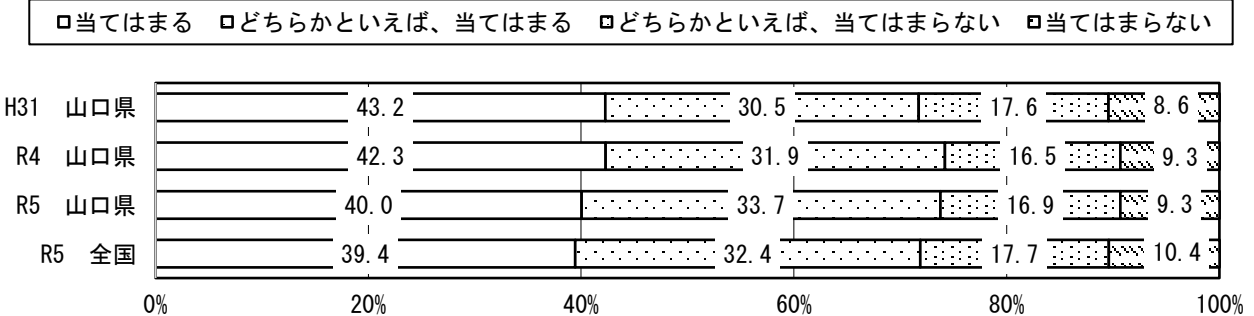
【中学校】（１５）普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



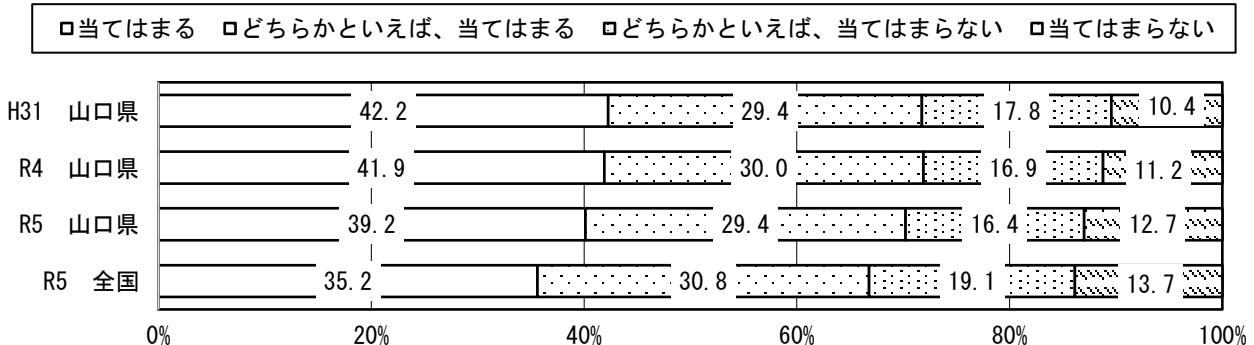
カ 読書が好き

○ 読書が好きと肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

【小学校】（２４）読書は好きですか



【中学校】（２４）読書は好きですか

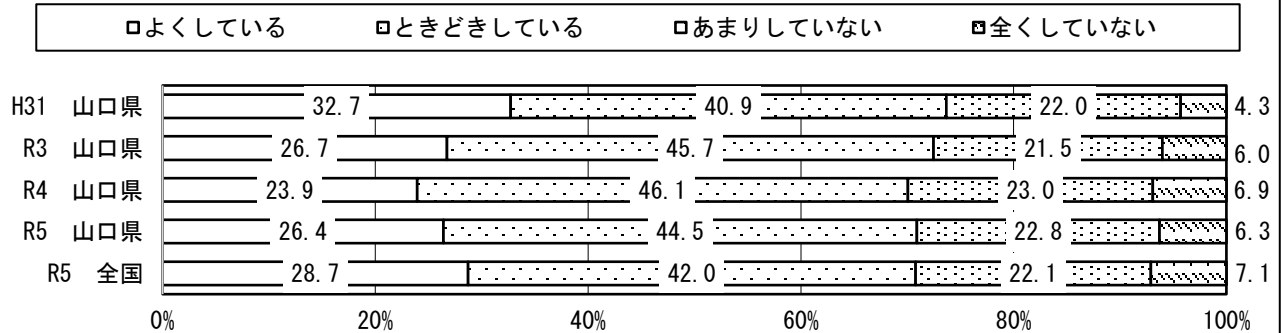


② 学習習慣・ICT

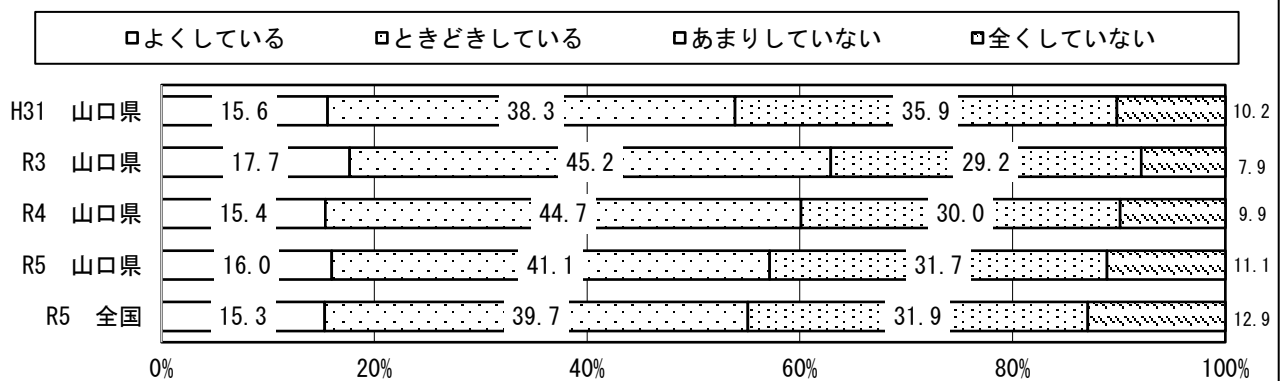
ア 自分で計画を立てた学習

- 家で自分で計画を立てて勉強することを「よくしている」と回答した児童生徒の割合は、小学校で全国を下回り、中学校で10%台となっている。

【小学校】（16）家で自分で計画を立てて勉強をしていますか



【中学校】（16）家で自分で計画を立てて勉強をしていますか

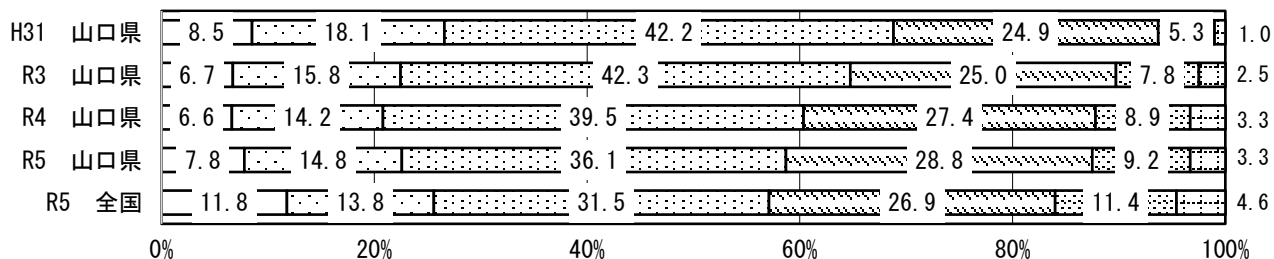


イ 平日の学習時間

- 学校の授業時間以外の勉強を、平日、「全くしない」「30分より少ない」「30分以上、1時間より少ない」と回答した児童生徒の割合が、前年度より増加した。

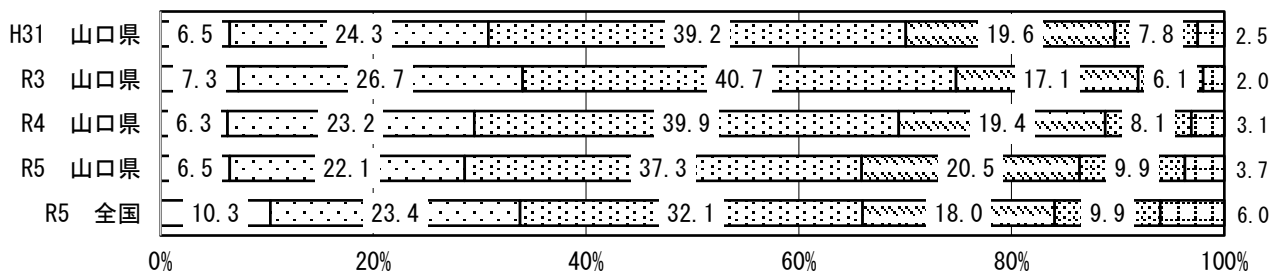
【小学校】（17）学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか

□ 3時間以上 □ 2時間以上、3時間より少ない □ 1時間以上、2時間より少ない
 □ 30分以上、1時間より少ない □ 30分より少ない □ 全くしない



【中学校】（17）学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか

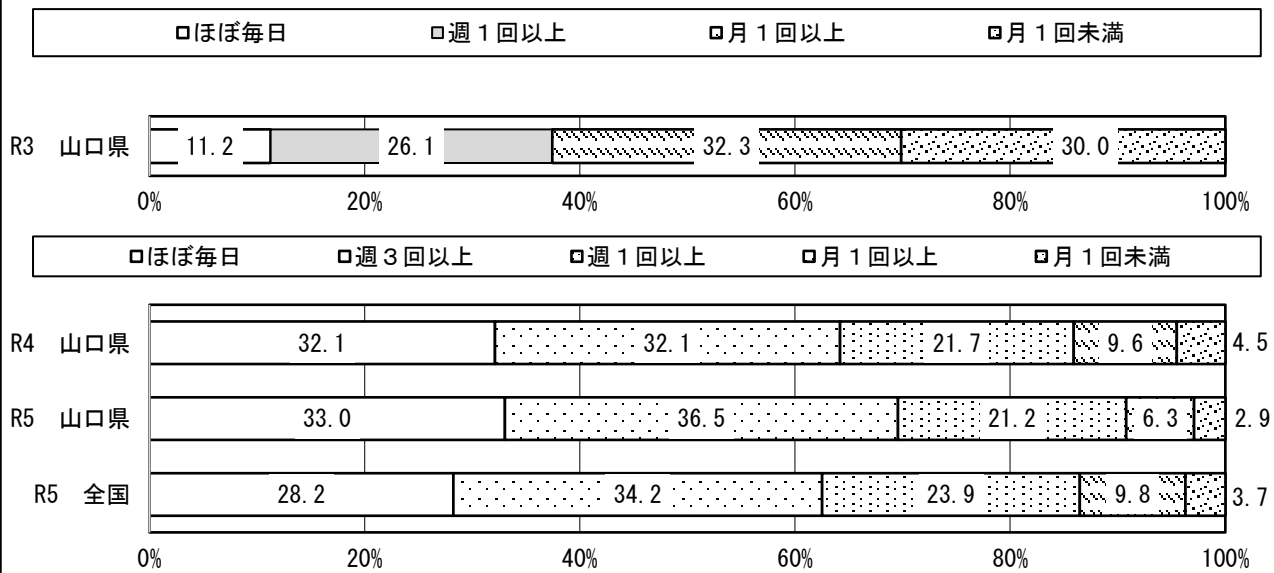
□ 3時間以上 □ 2時間以上、3時間より少ない □ 1時間以上、2時間より少ない
 □ 30分以上、1時間より少ない □ 30分より少ない □ 全くしない



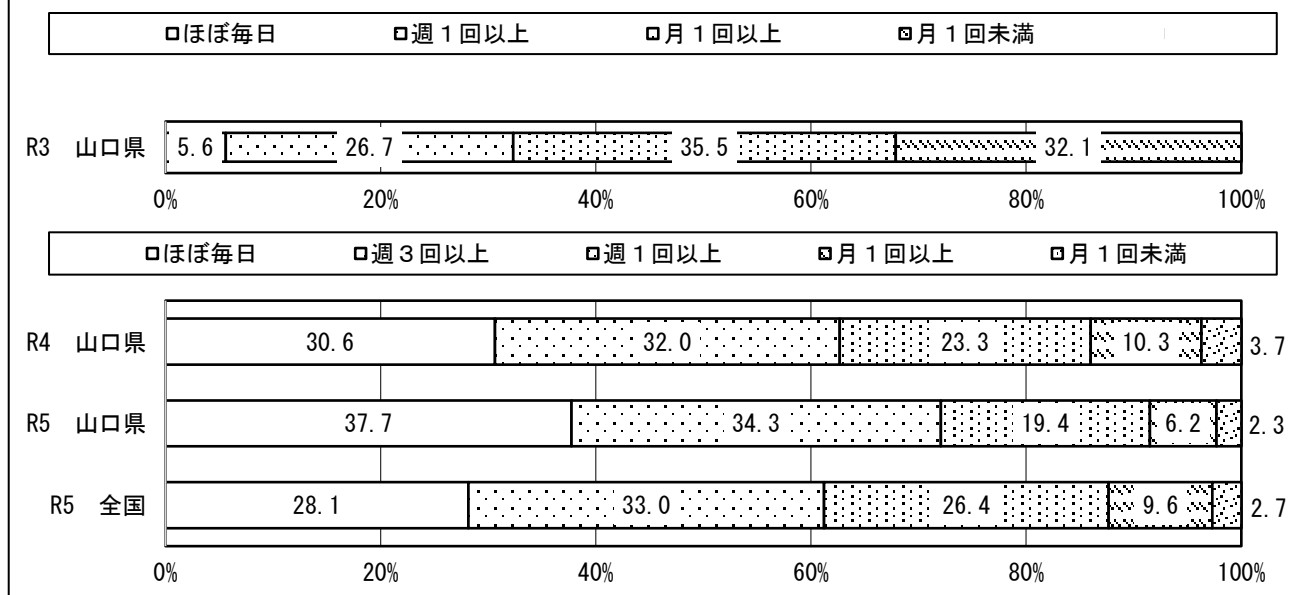
ウ コンピュータやICTをどの程度活用したか

○ 前学年までに受けた授業で、PCなどのICT機器をほぼ毎日使用したと回答した児童生徒の割合は、前年度に比べて増加しており、全国と比べても高い。

【小学校】（29）5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



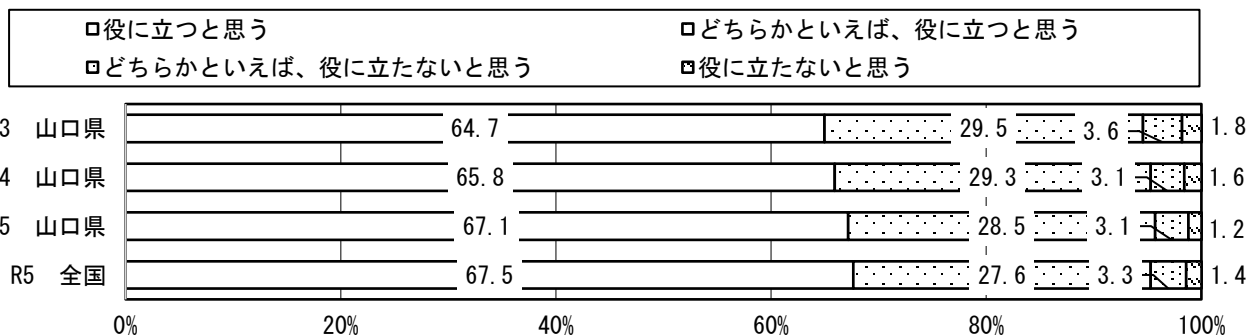
【中学校】（33）1，2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



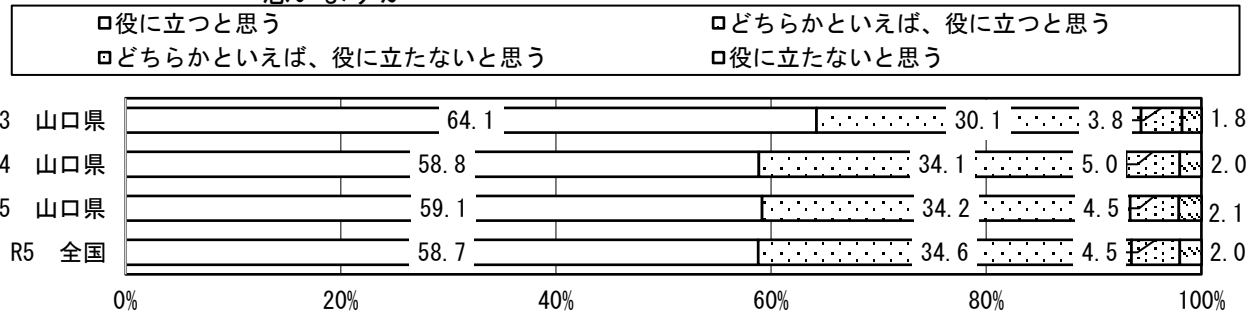
エ 学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つか

○ 学習の中でICT機器を使うのは役に立つと回答した児童生徒の割合は、全国とほぼ同程度である。

【小学校】（30）学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか



【中学校】（34）学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか

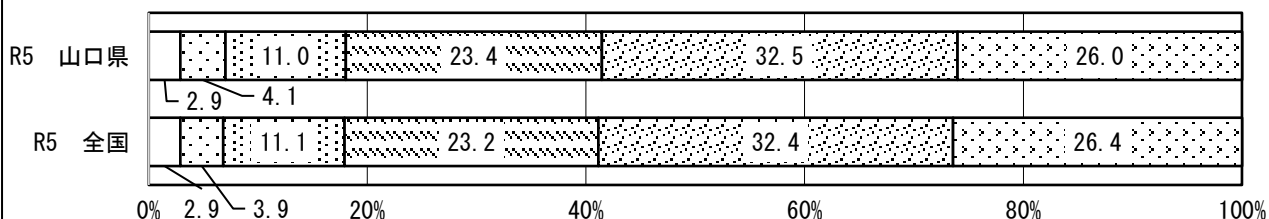


オ 学校の授業時間以外に、ICT機器を勉強のために使っているか

○ 学校の授業時間以外に、ICT機器を1日当たり使っている時間は、全国とほぼ同程度である。

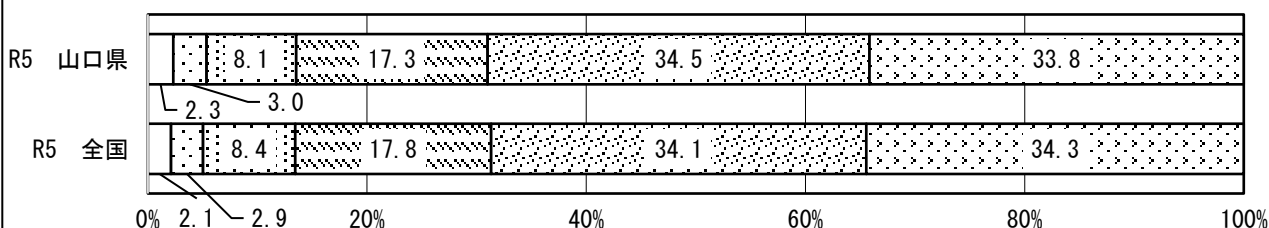
【小学校】（31）学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか

3時間以上
 2時間以上、3時間より少ない
 1時間以上、2時間より少ない
 30分以上、1時間より少ない
 30分より少ない
 全く使っていない



【中学校】（35）学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか

3時間以上
 2時間以上、3時間より少ない
 1時間以上、2時間より少ない
 30分以上、1時間より少ない
 30分より少ない
 全く使っていない



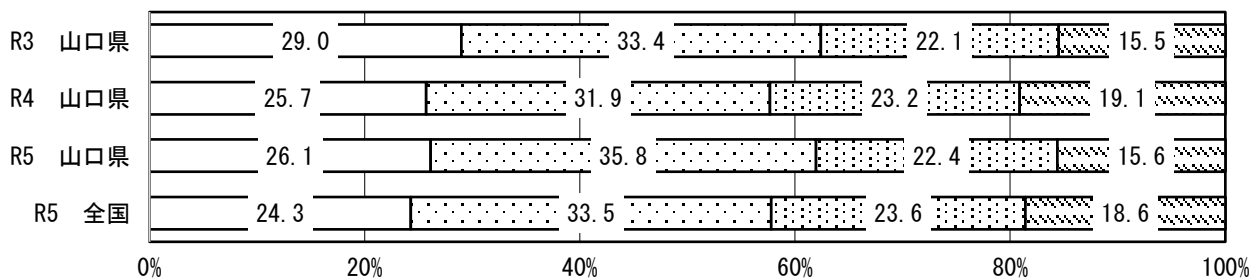
③ 地域や社会との関わり

ア 今住んでいる地域の行事に参加している

○ 今住んでいる地域の行事に参加していると回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高いが、中学校では減少傾向にある。

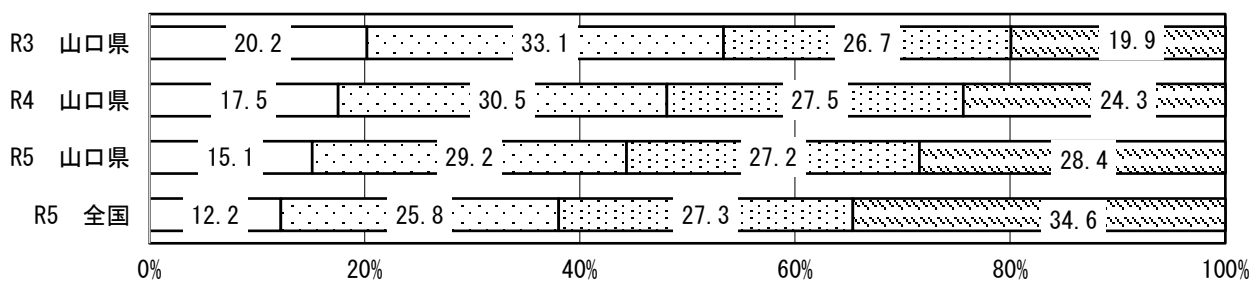
【小学校】（25）今住んでいる地域の行事に参加している

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



【中学校】（29）今住んでいる地域の行事に参加している

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

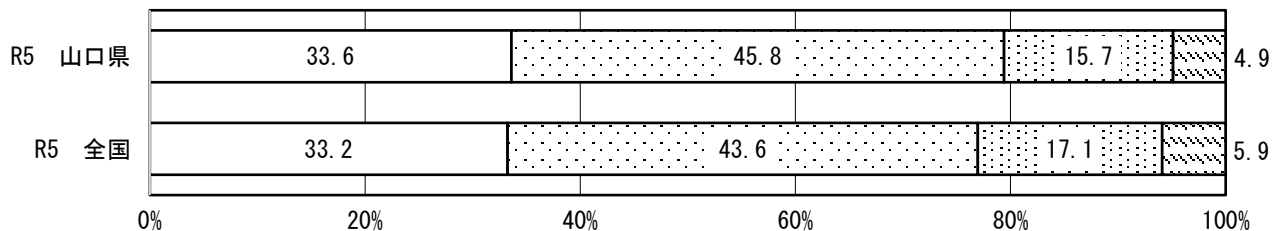


イ 地域や社会をよくするために何かしてみたい

○ 地域や社会をよくするために何かしてみたいと回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

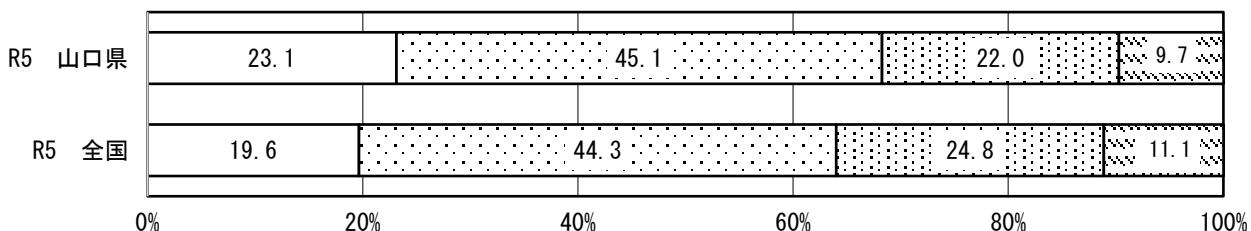
【小学校】（26）地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



【中学校】（30）地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う

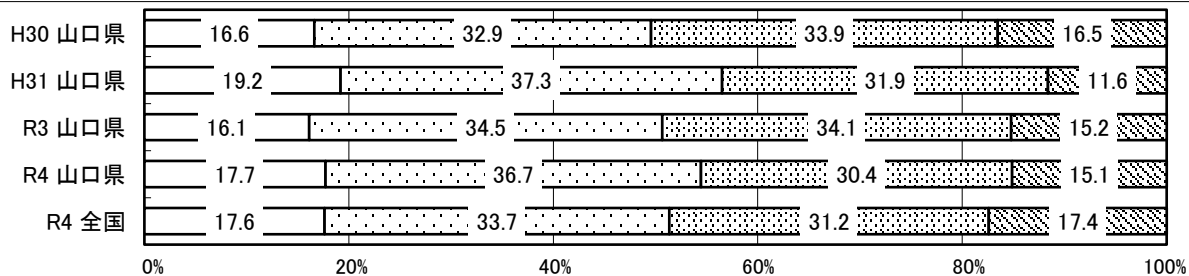
□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



【参考】R4年度までの経年変化

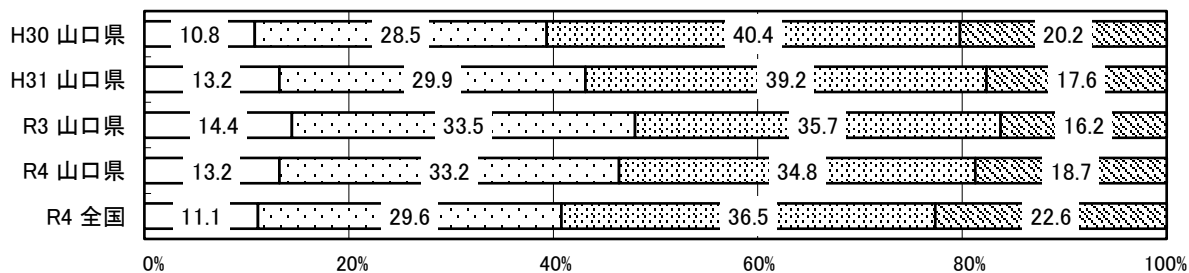
【小学校】（30）地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



【中学校】（30）地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



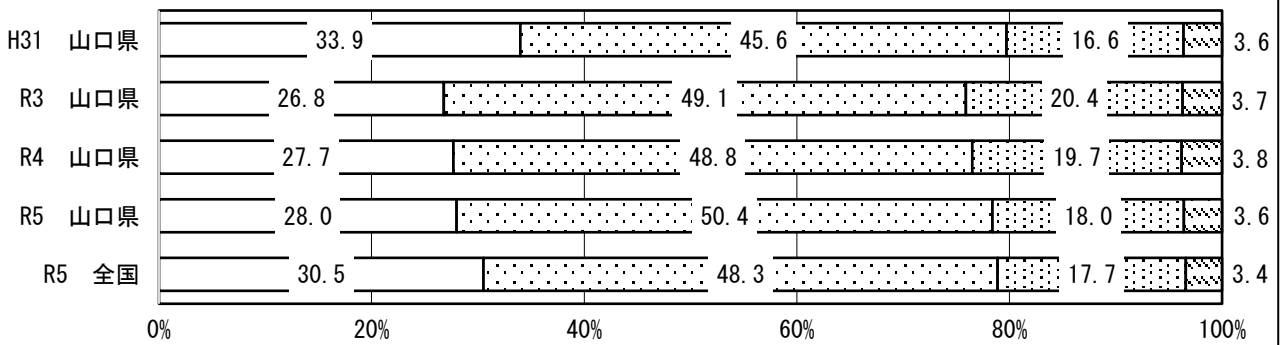
④ 学びに向かう姿勢・授業

ア 課題の解決に向けた主体的な取組

- 小学校では、授業において課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む児童の割合は、全国と比べて低いものの、前年度よりやや増加している。
- 中学校では、全国と比べて高いものの、前年度より減少している。

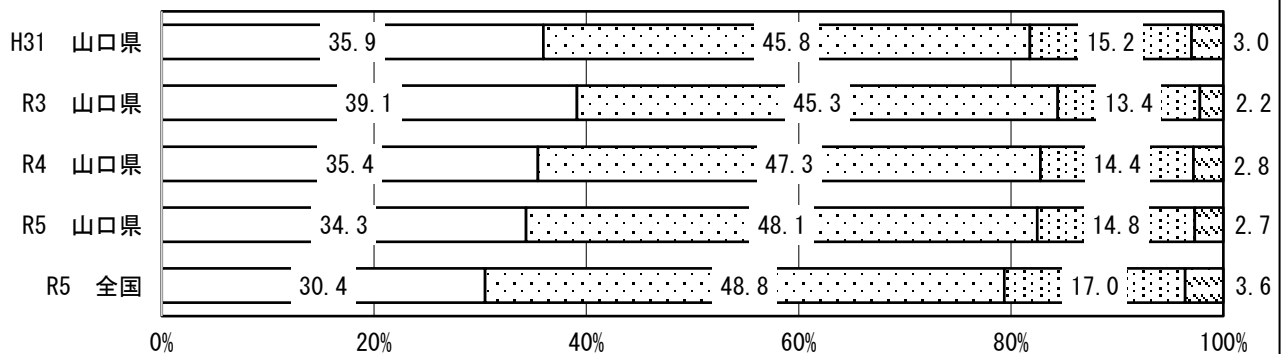
【小学校】（33）課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



【中学校】（37）課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた

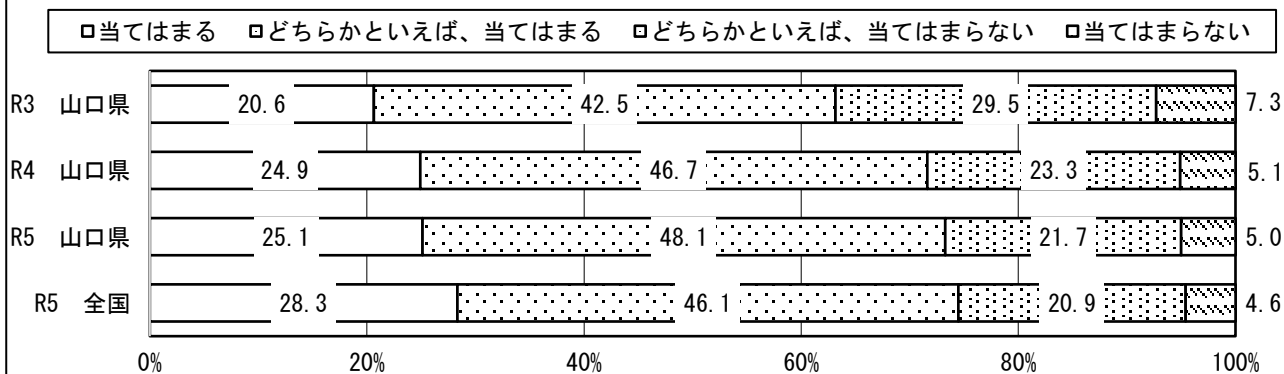
□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



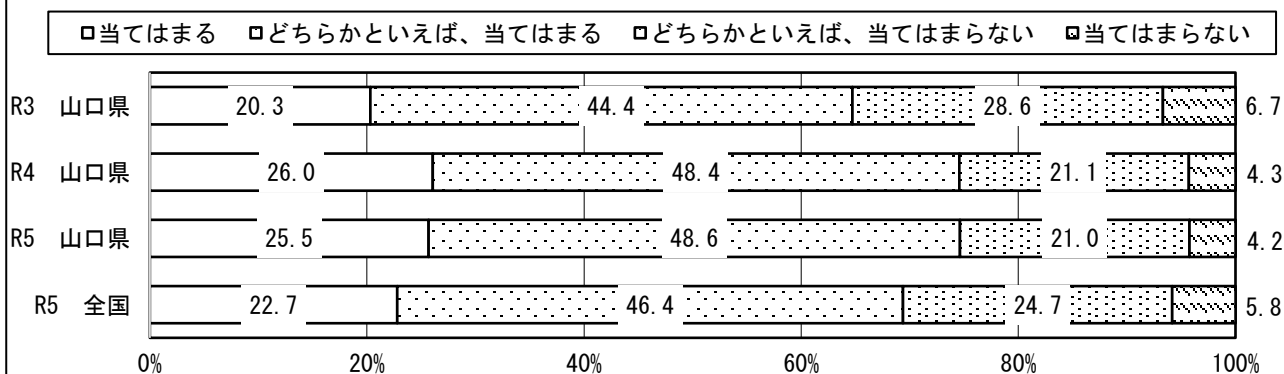
イ 各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動

- 小学校では、授業において各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた児童の割合は、全国と比べて低いものの、前年度よりやや増加している。
- 中学校では、全国と比べて高い。

【小学校】（34）授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた



【中学校】（38）授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた

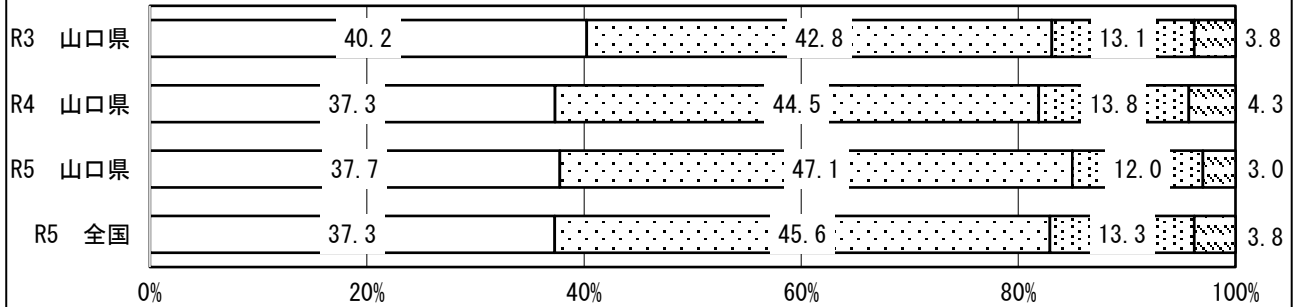


ウ 学習者にあった教え方、教材、学習時間

○ 自分にあった教え方、教材、学習時間になっていたと回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

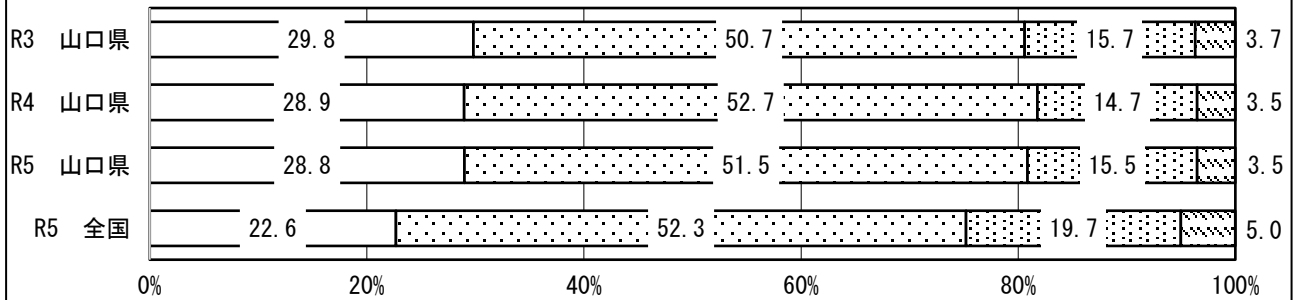
【小学校】（35）授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



【中学校】（39）授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

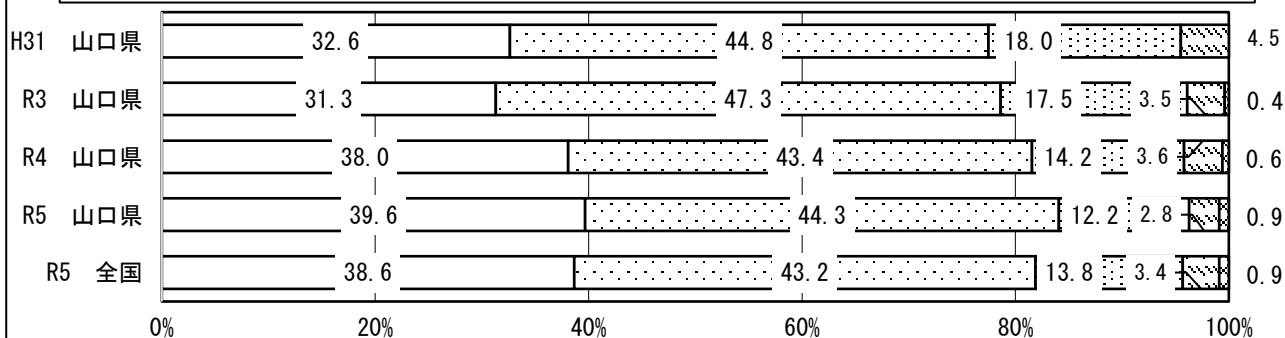


エ 話し合いで自分の考えを深めたり広げたりする

○ 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

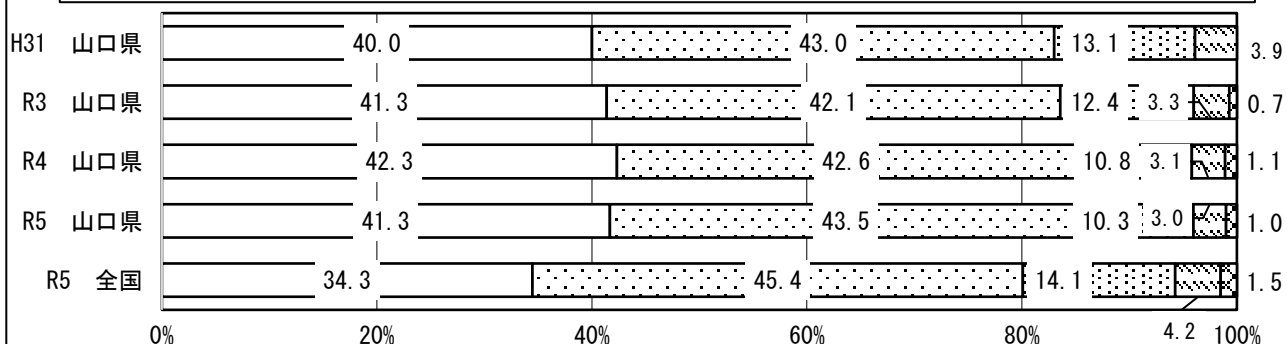
【小学校】（36）学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか

- 当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない
 学級の友達との間で話し合う活動を行っていない



【中学校】（40）学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか

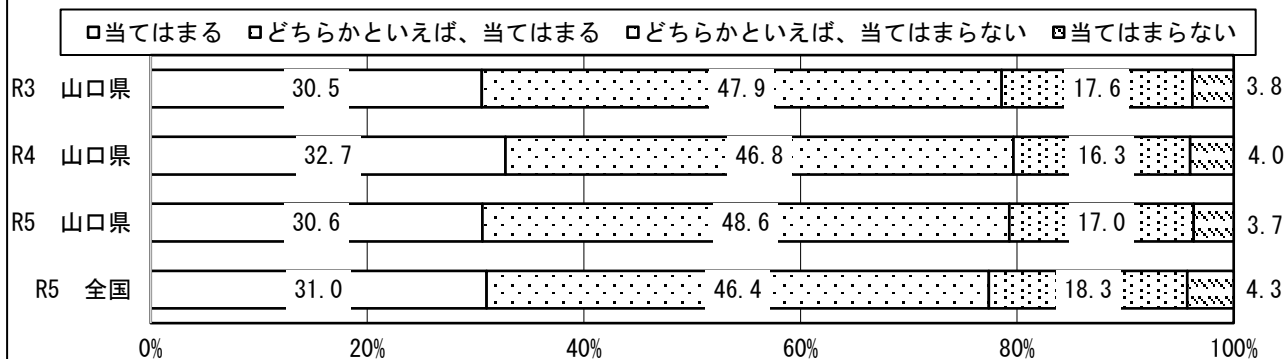
- 当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない
 学級の生徒との間で話し合う活動を行っていない



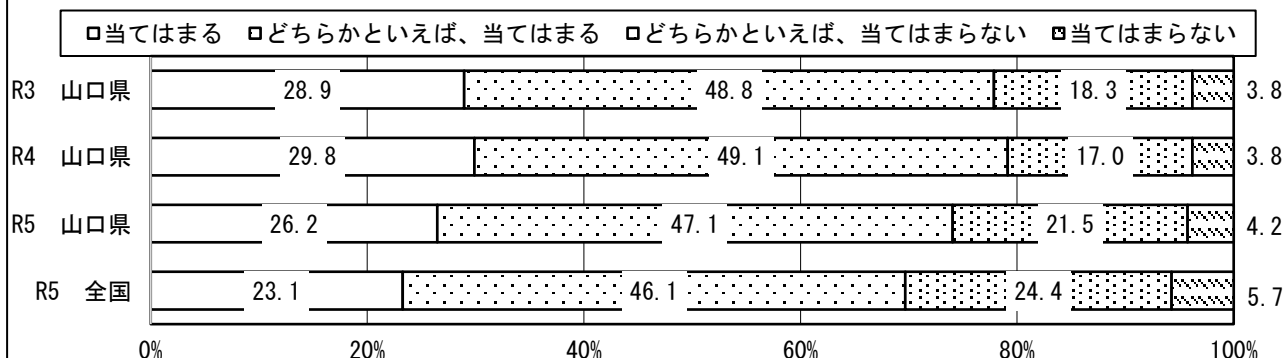
オ 学習内容を見直し、次の学習につなげる

○ 学習した内容について見直し、次の学習につなげることができる児童生徒の割合は、小学校は全国とほぼ同程度であり、中学校は全国と比べて高い。

【小学校】（37）学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか



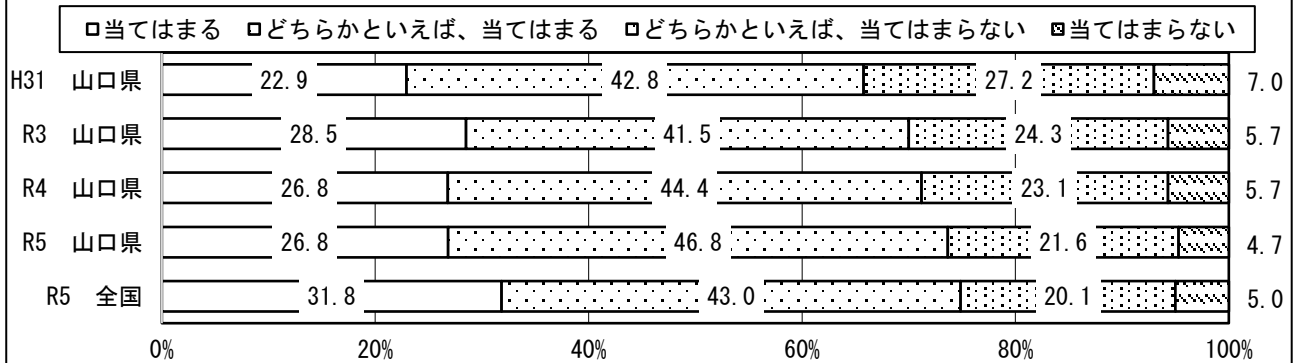
【中学校】（41）学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか



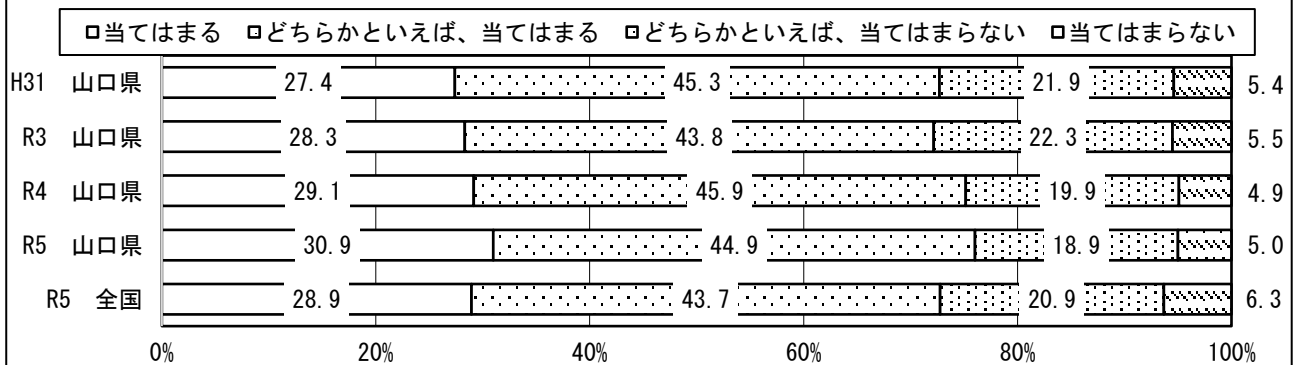
カ 総合的な学習の時間での情報収集や発表等の学習活動

- 小学校では、総合的な学習の時間に、自分の課題を立てて情報収集したり、発表したりするなどの学習活動に取り組む児童の割合は、全国と比べて低い。
- 中学校では、前年度に比べて増加し、全国と比べても高い。

【小学校】（39）総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる



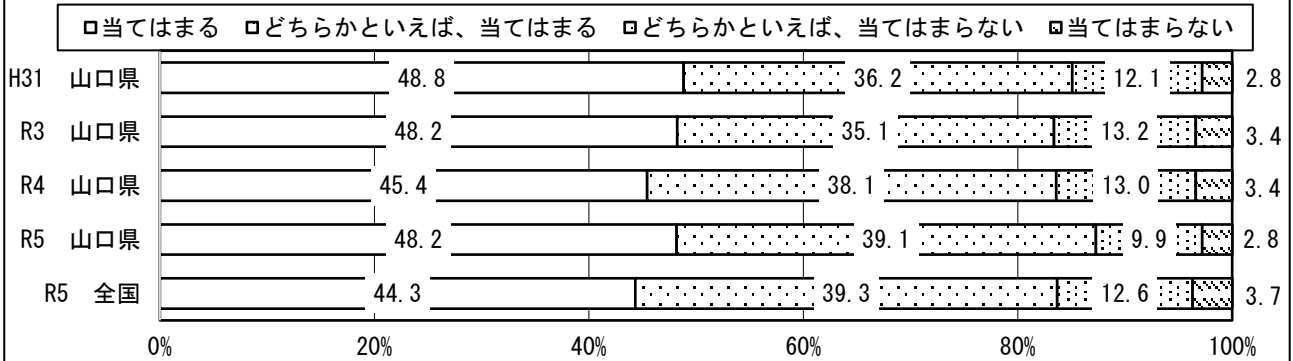
【中学校】（43）総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる



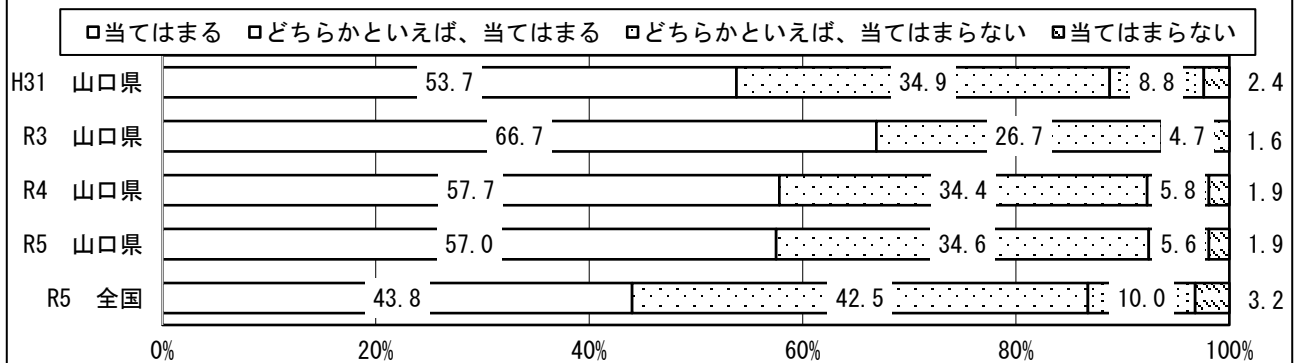
キ 道徳の時間で考えを深める、グループで話し合う

○ 「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」に「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

【小学校】（４２）道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる



【中学校】（４６）道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる



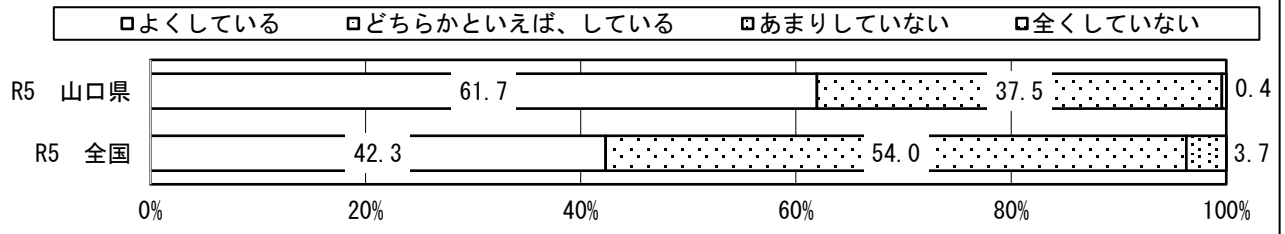
(2) 学校質問紙の結果

① 学校運営

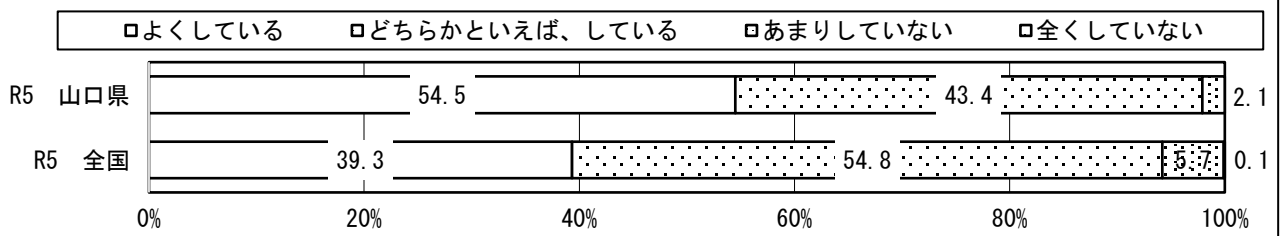
ア 各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように、教育課程表を作成

- 教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関係が分かるように作成している小中学校の割合は、全国と比べて高い。

【小学校】 18 教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成している。



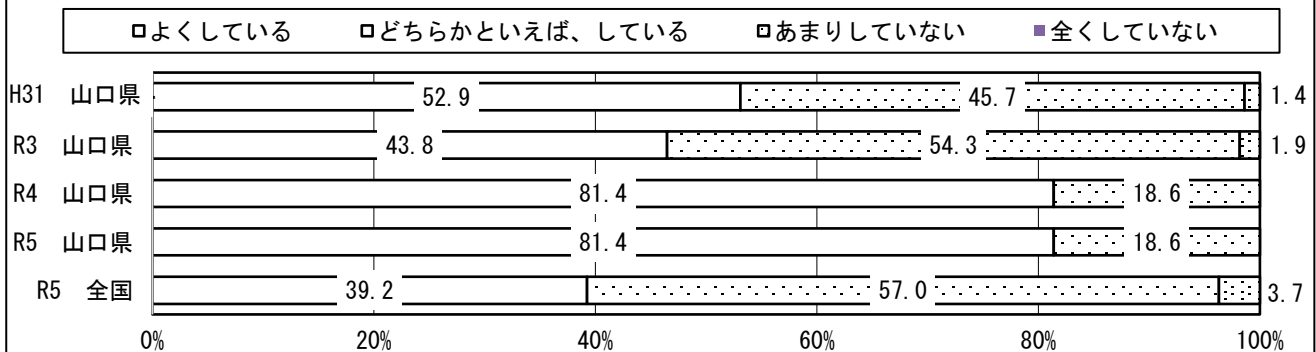
【中学校】 18 教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関係が分かるように作成している



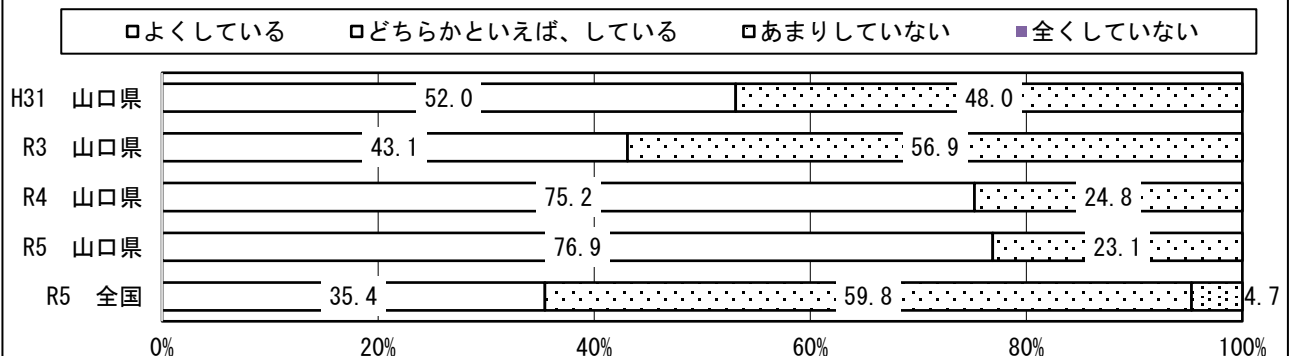
イ 子どもの姿や地域に関するデータ等に基づいたPDCAサイクルの確立

- 児童生徒の姿や地域の現状に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している小中学校の割合は、全国と比べて高い。

【小学校】 19 児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している



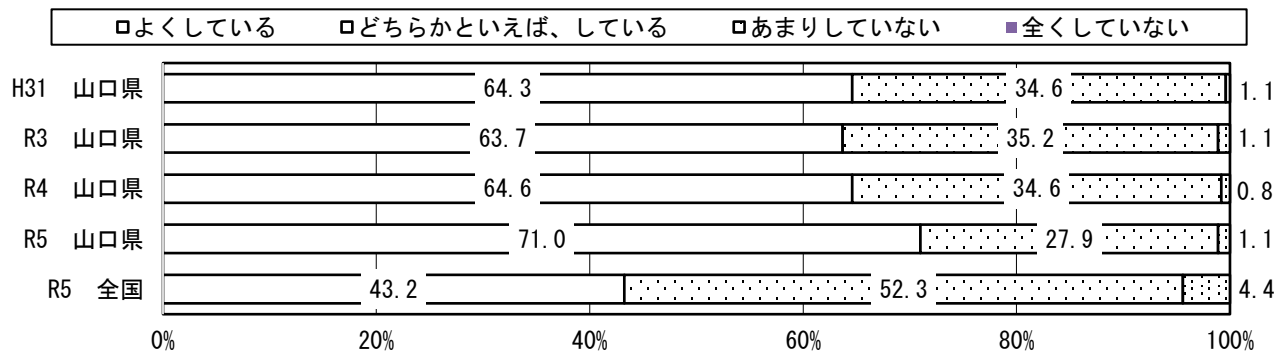
【中学校】 19 生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している



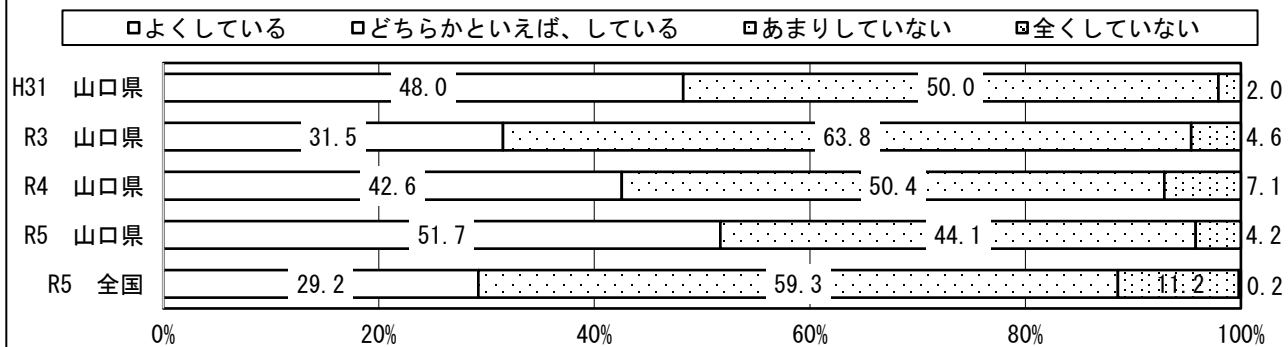
ウ 教育活動に必要な人的・物的資源等の活用

- 指導計画の作成に当たっては、教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている小中学校の割合は、全国と比べて高く、前年度より増加している。

【小学校】 20 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている



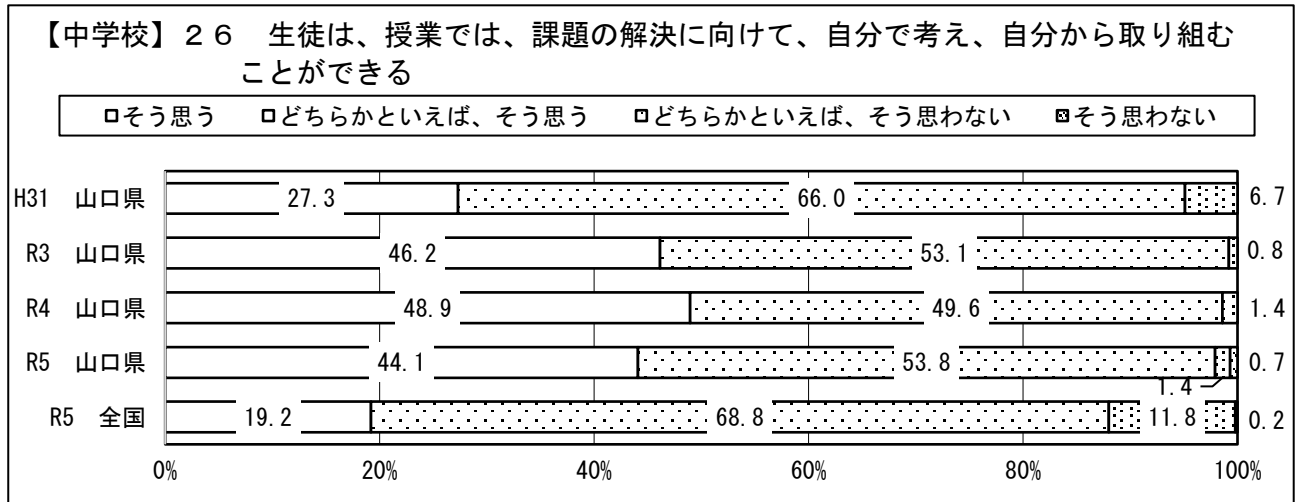
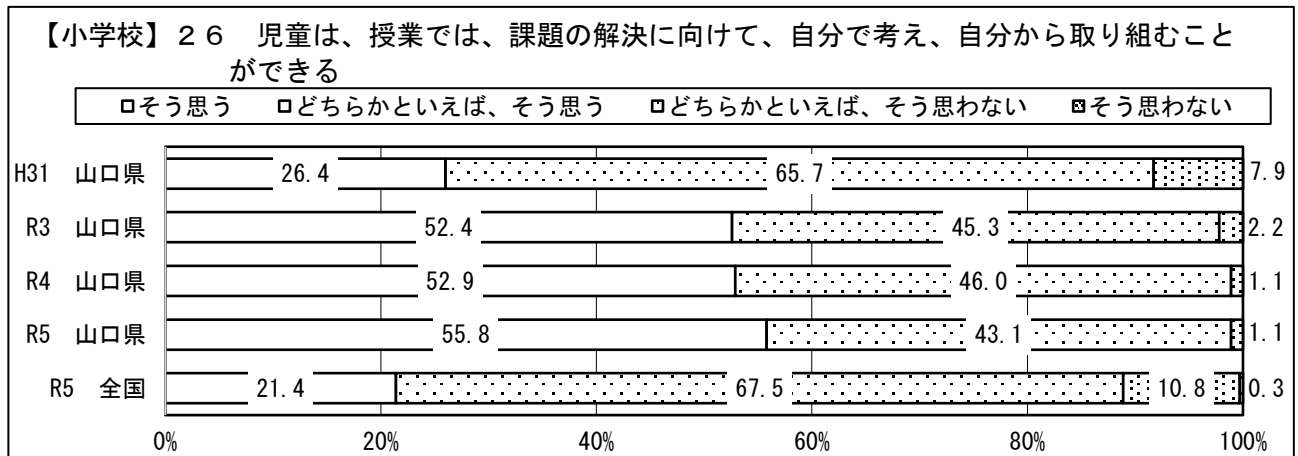
(中学校) 20 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源などを、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている



② 学習指導

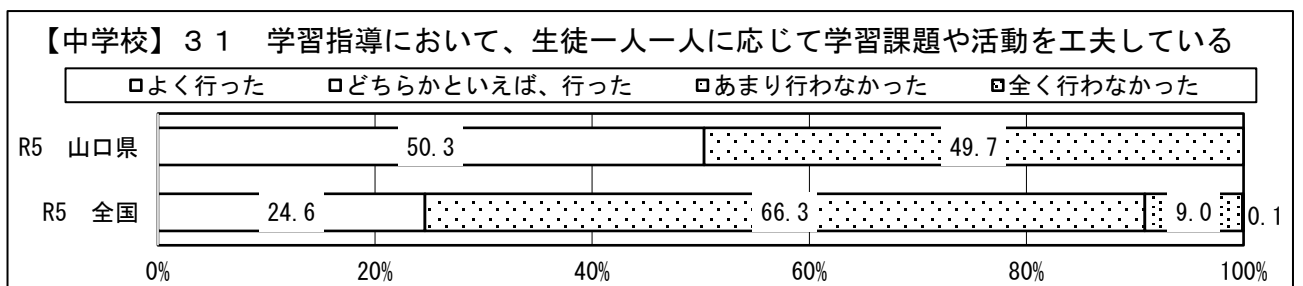
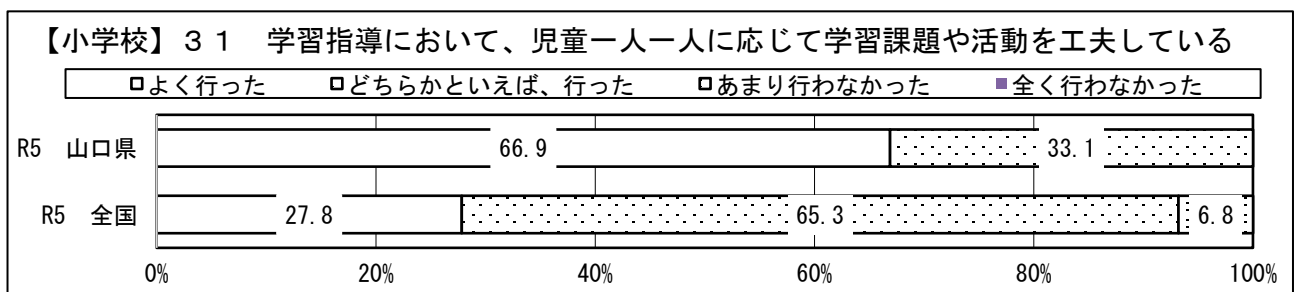
ア 授業では、児童生徒は自分で考え、自分から取り組む

- 授業で課題の解決に向けて、児童生徒が自分で考え、自分から取り組むことができる小中学校の割合は、全国と比べて高い。



イ 学習指導において、児童生徒一人一人に応じた学習課題や活動の工夫

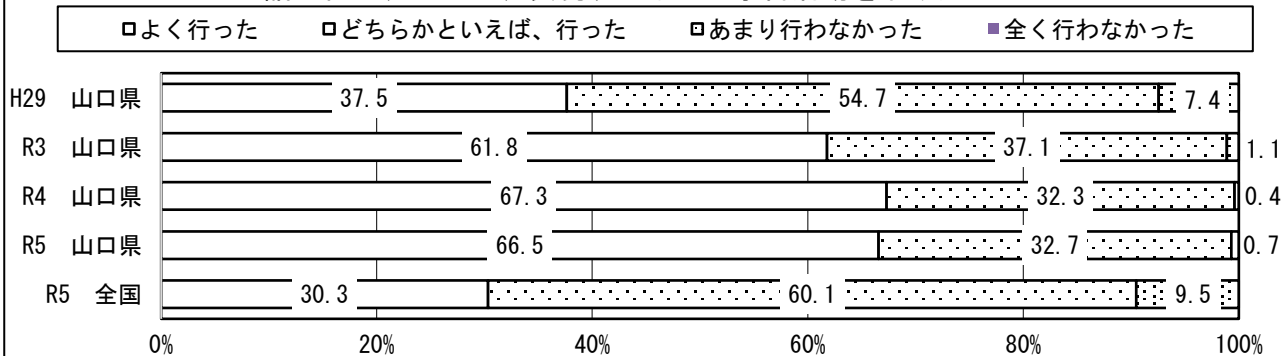
- 学習指導において、児童生徒一人一人に応じた学習課題や活動を工夫した小中学校の割合は、全国と比べて高い。



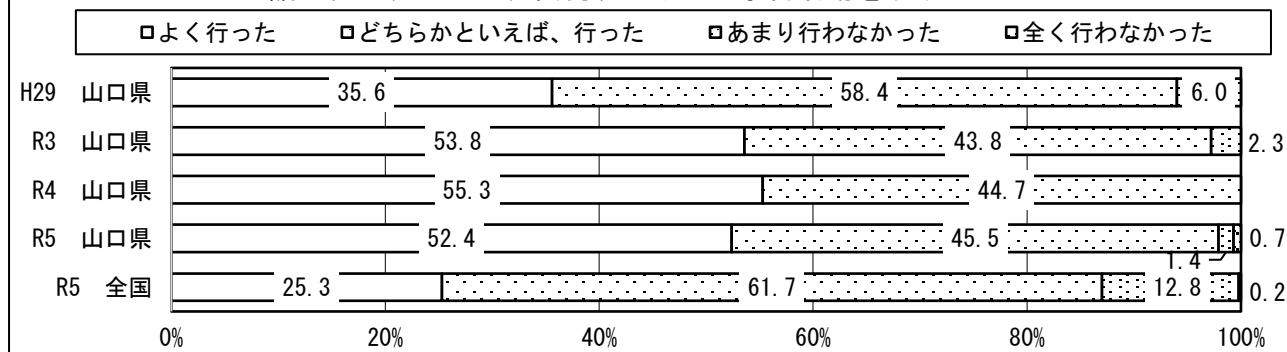
ウ 課題を設定し、話し合い、まとめ、表現する学習活動

- 授業において、児童生徒が自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた小中学校の割合は、全国と比べて高い。

【小学校】 3 3 授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた



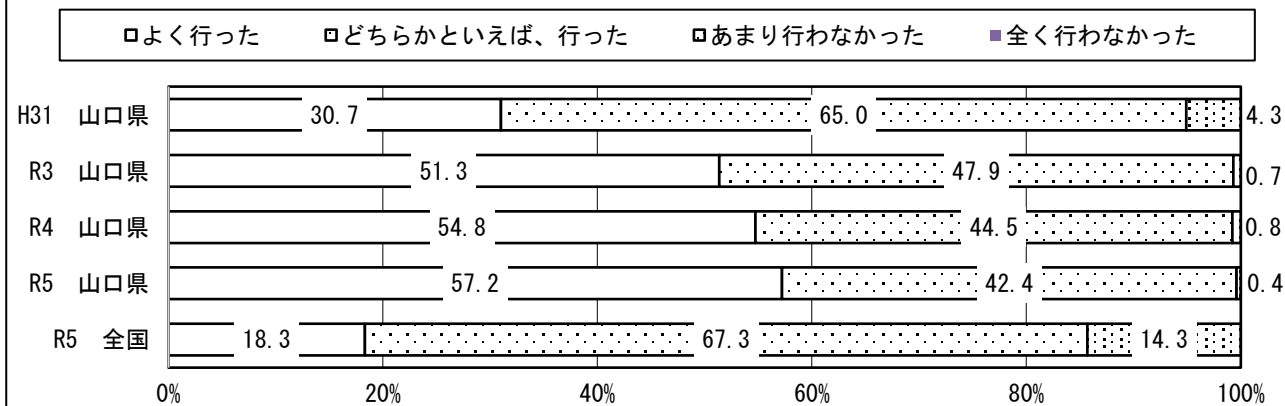
【中学校】 3 3 授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた



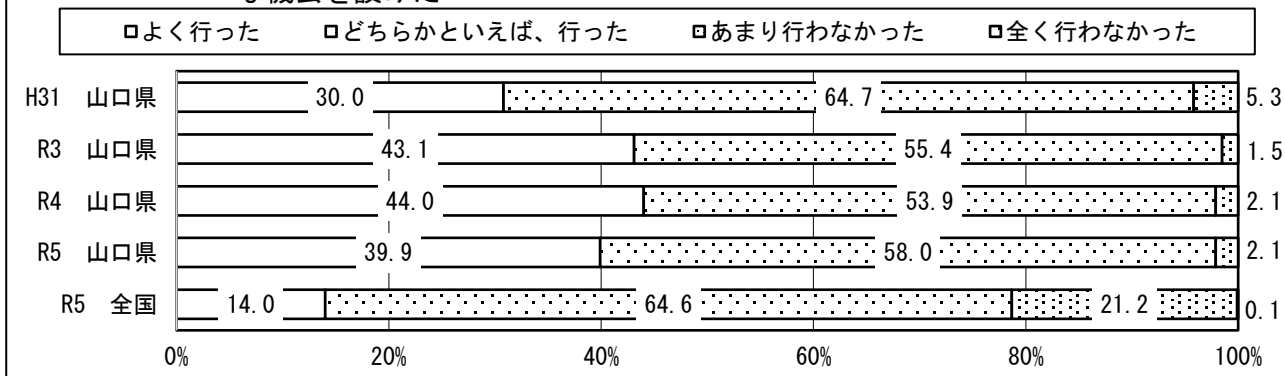
エ 各教科等で身に付けたことを、課題解決に生かす機会の設定

- 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた小中学校の割合は、全国と比べて高い。

【小学校】 35 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた

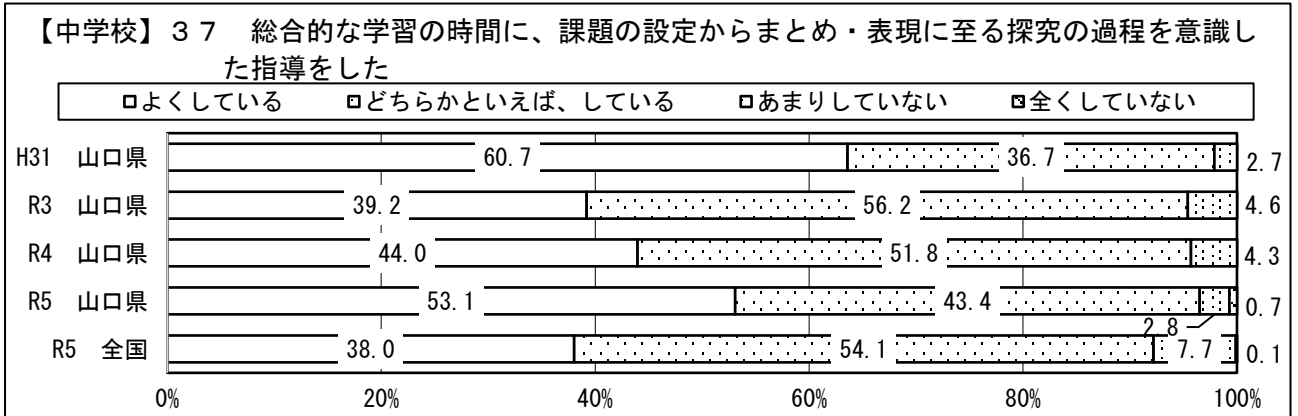
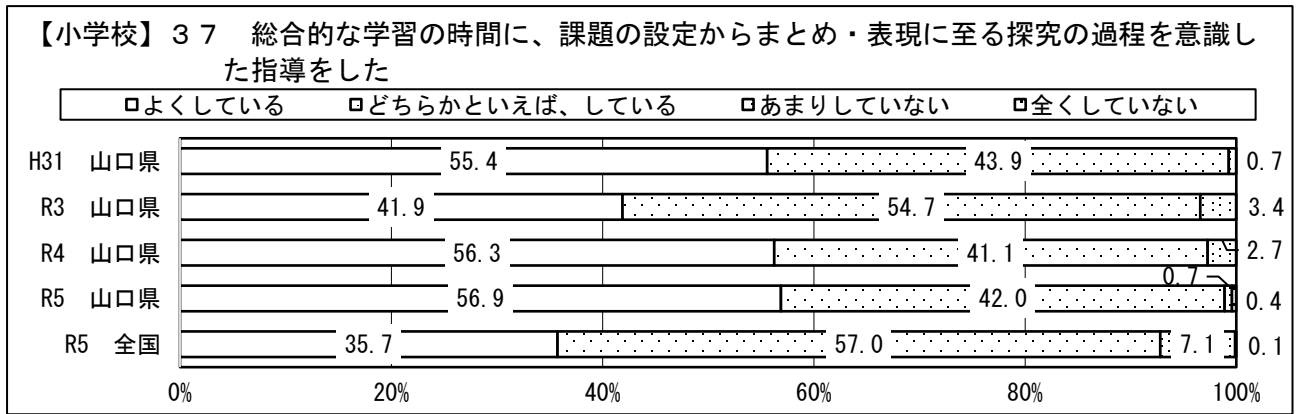


【中学校】 35 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた



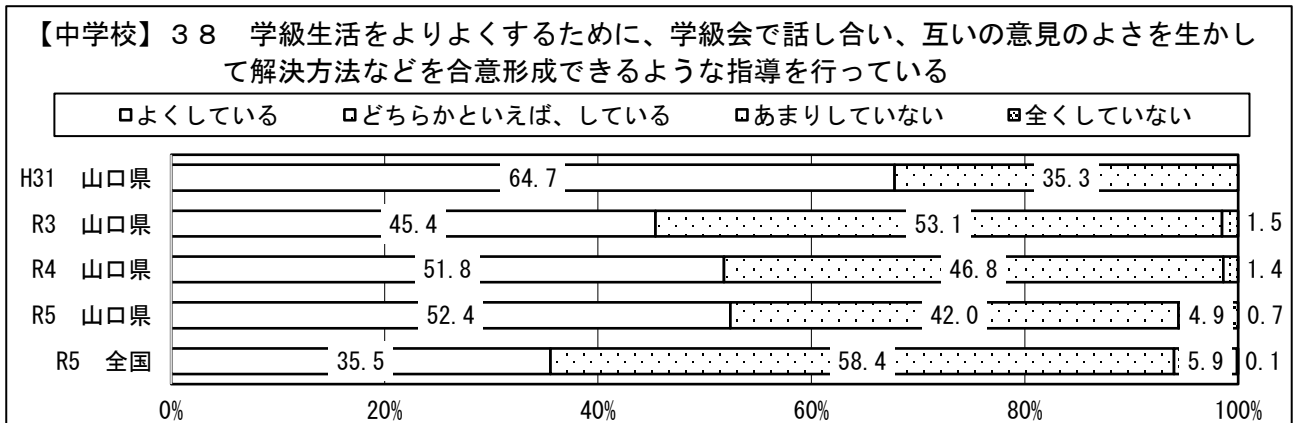
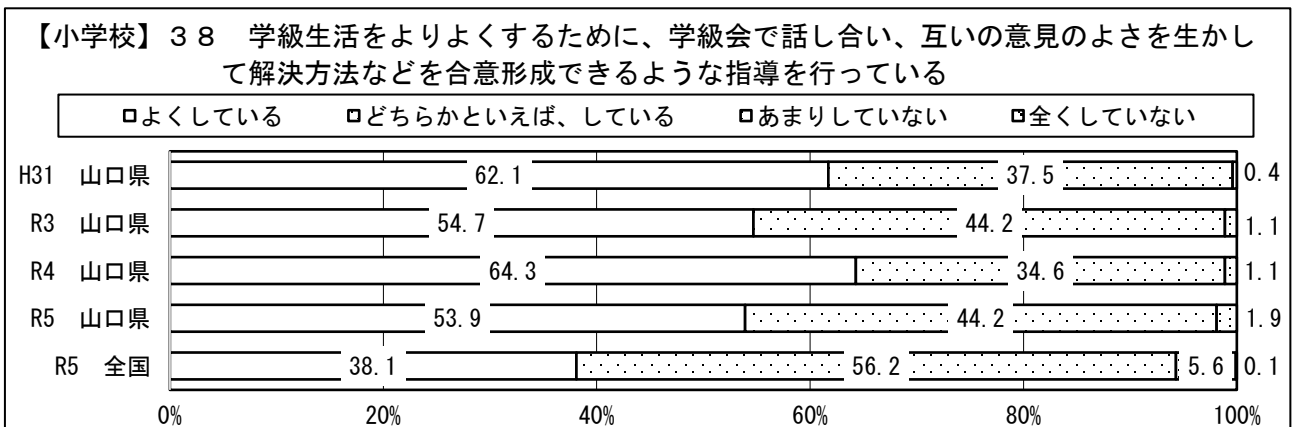
オ 総合的な学習の時間における指導

○ 総合的な学習の時間に、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をした小中学校の割合は、全国と比べて高い。



カ よりよい学級生活のために話し合い、合意形成する指導

○ 学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成する指導を行っている小中学校の割合は、全国と比べて高い。

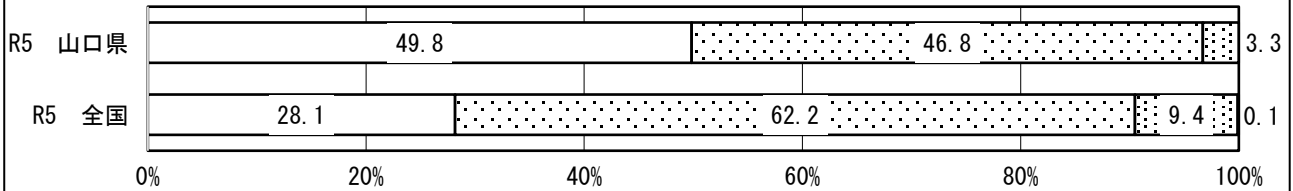


キ 学習評価による指導改善及び学習改善

- 学習評価の方針を示した上で、児童生徒の学習評価の結果を、その後の指導改善や学習改善に生かすことを心がけた小中学校の割合は、全国と比べて高い。

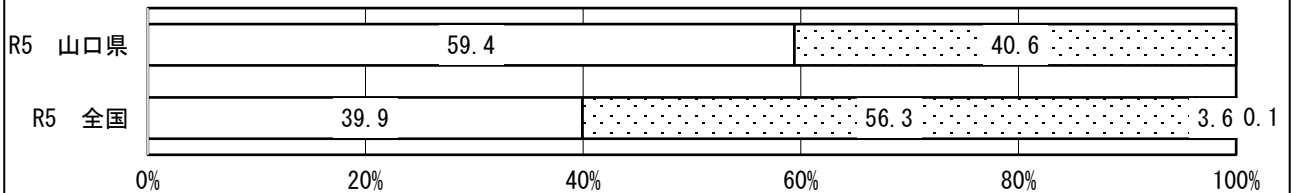
【小学校】 4 1 学習評価の方針を児童に示した上で、児童の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かすことを心がけましたか

そう思う どちらかといえば、そう思う どちらかといえば、そう思わない そう思わない



【中学校】 4 1 学習評価の方針を生徒に示した上で、生徒の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かすことを心がけましたか

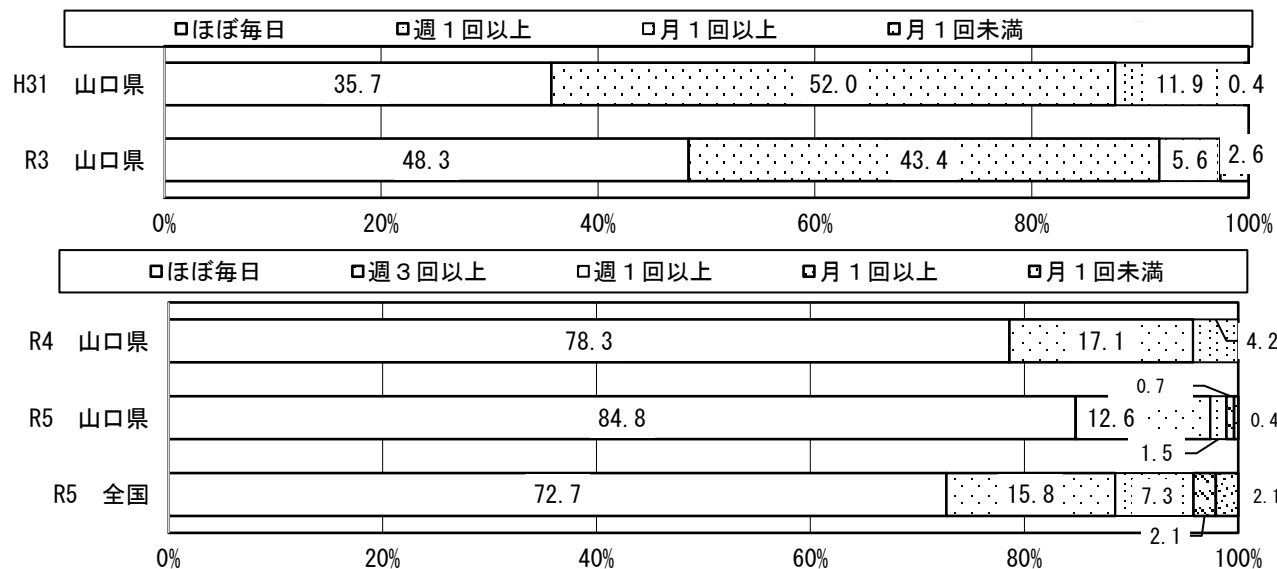
そう思う どちらかといえば、そう思う どちらかといえば、そう思わない そう思わない



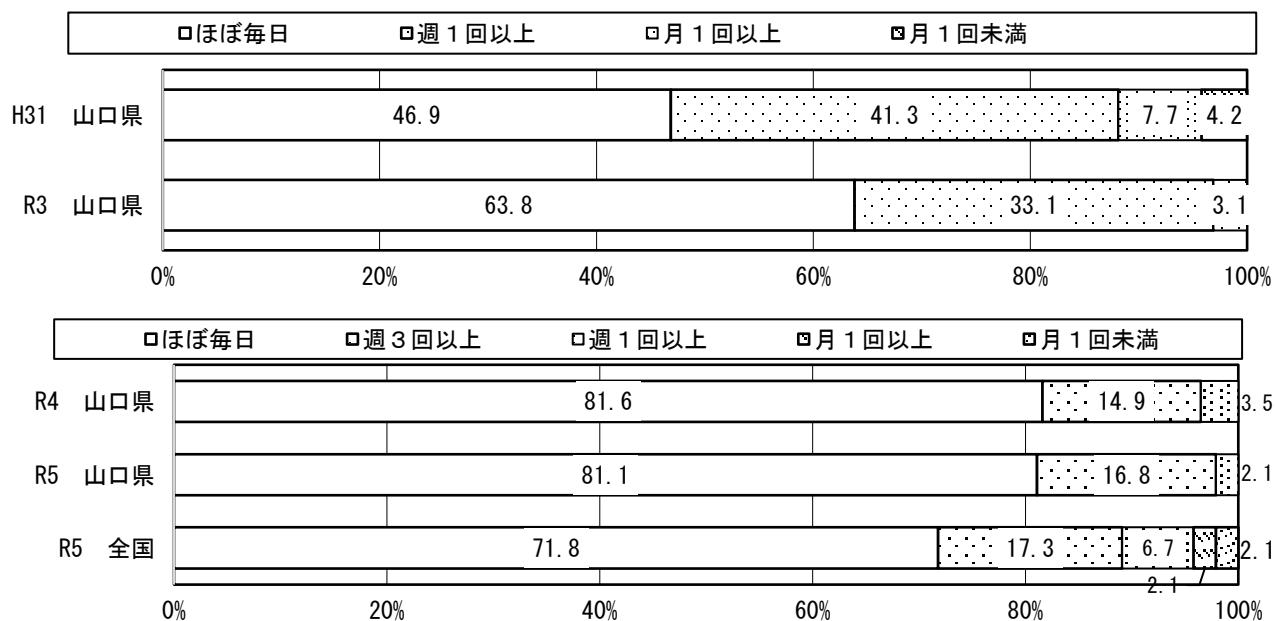
ク 大型提示装置等の I C T 機器を活用した授業

○ 教員が大型提示装置等の I C T 機器を活用した授業を 1 クラス当たりほぼ毎日行った、と回答した小中学校の割合は、全国と比べて高い。

【小学校】 5 2 教員が大型提示装置等の I C T 機器を活用した授業を 1 クラス当たりどの程度行いましたか



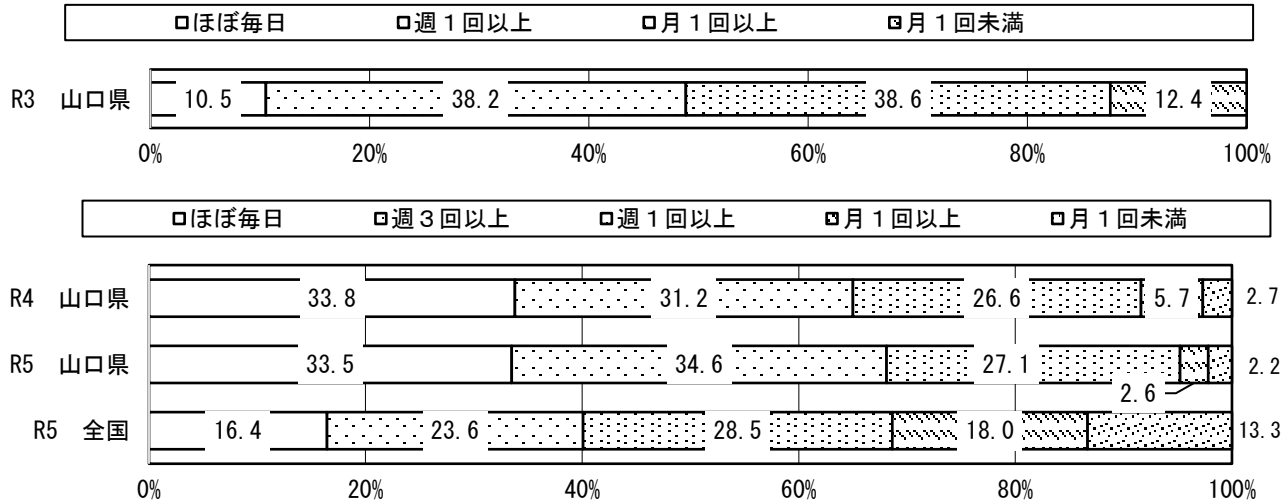
【中学校】 6 0 教員が大型提示装置等の I C T 機器を活用した授業を 1 クラス当たりどの程度行いましたか



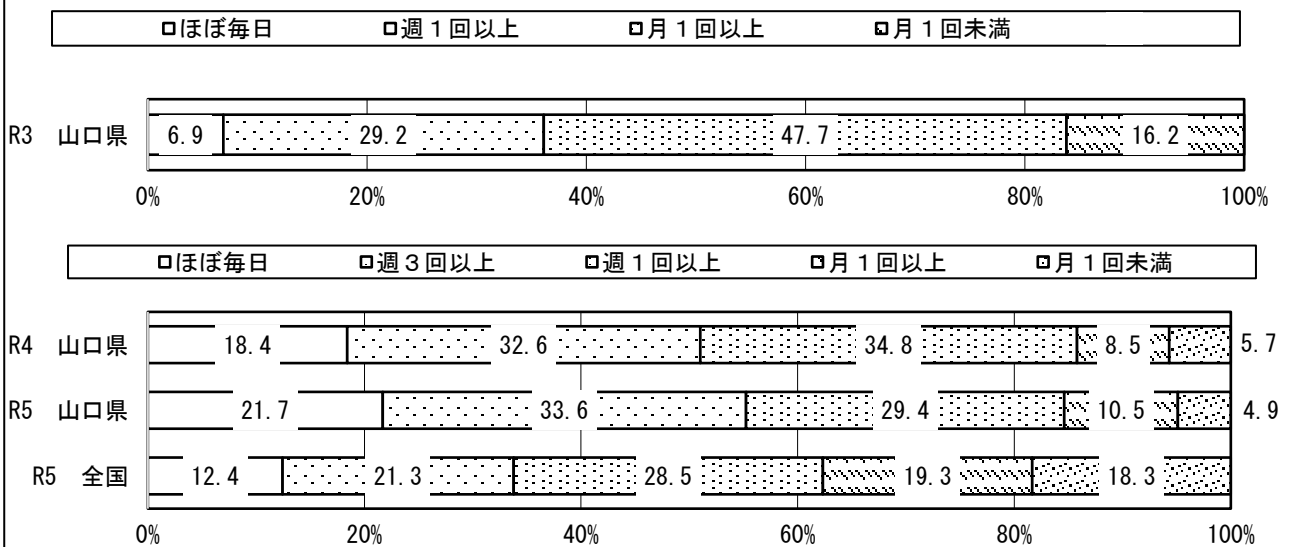
ケ ICT機器を活用した児童生徒同士のやりとり

- 児童生徒がやりとりする場面で、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用している、と回答した小中学校の割合は、全国と比べて高い。

【小学校】 59 児童同士がやりとりする場面で、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



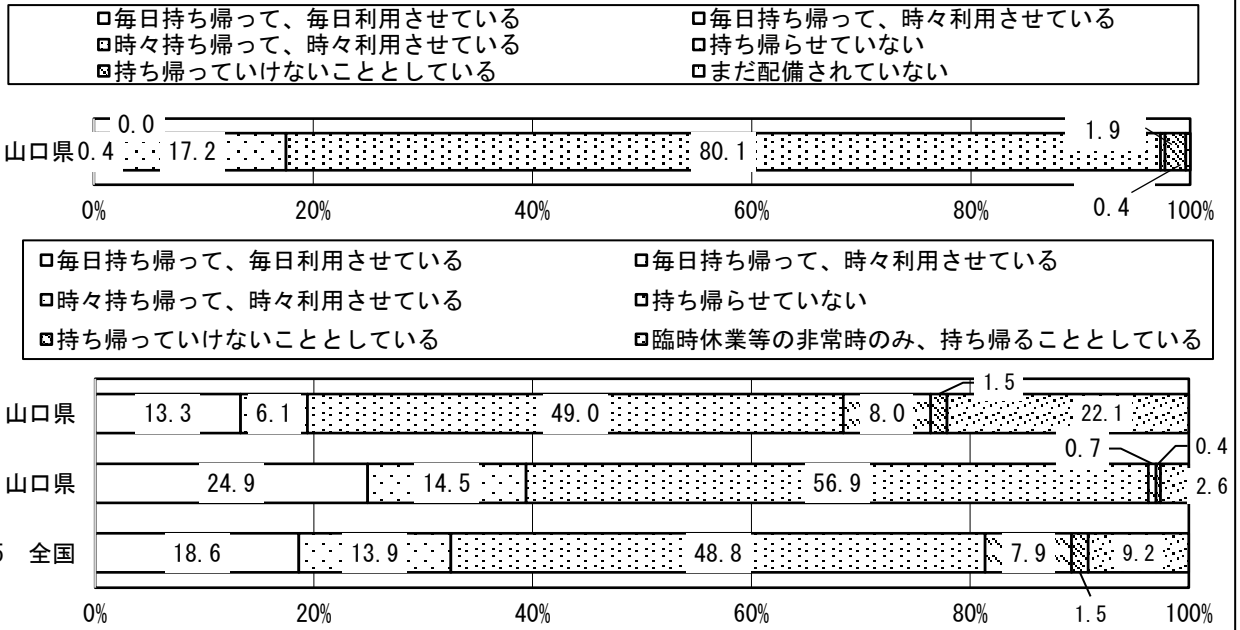
【中学校】 67 生徒同士がやりとりする場面で、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



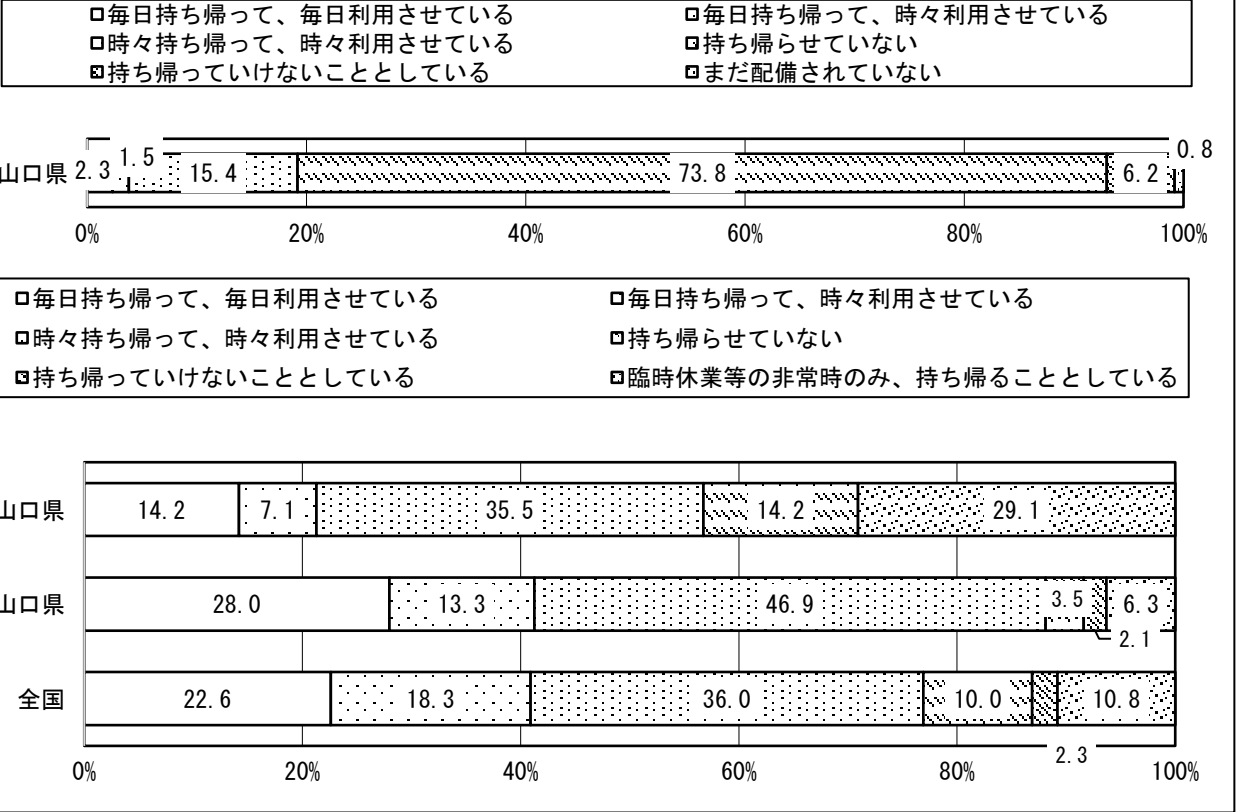
コ 配備された一人一台端末の家庭での利用

○ 配備されたPC・タブレットなどの端末を毎日家庭に持ち帰り毎日利用している、と回答した小中学校の割合は、増加傾向にあり、全国と比べて高い。

【小学校】 63 あなたの学校では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか



【中学校】 71 あなたの学校では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

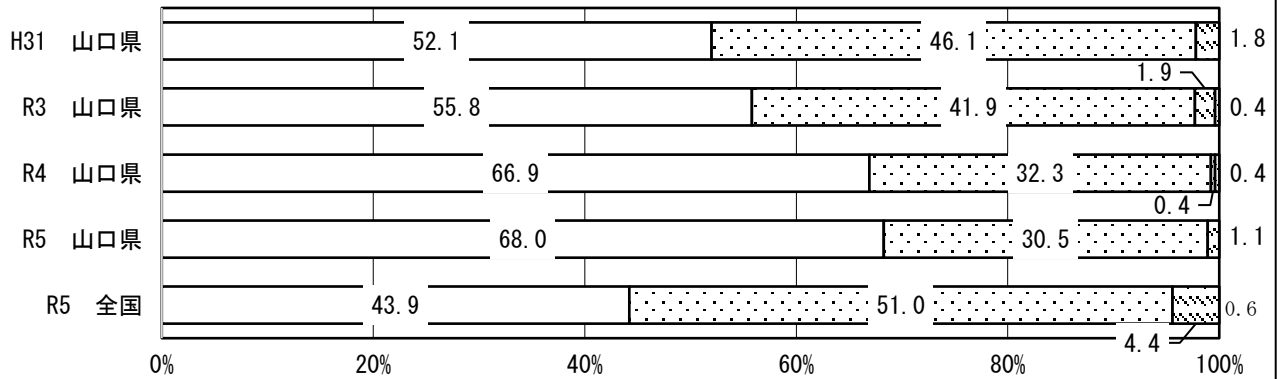


サ 特別支援教育についての理解と、児童生徒の特性に応じた指導の工夫

- 教員が特別支援教育について理解し、授業の中で児童生徒の特性に応じた指導上の工夫を行った小中学校の割合は、全国と比べて高い。

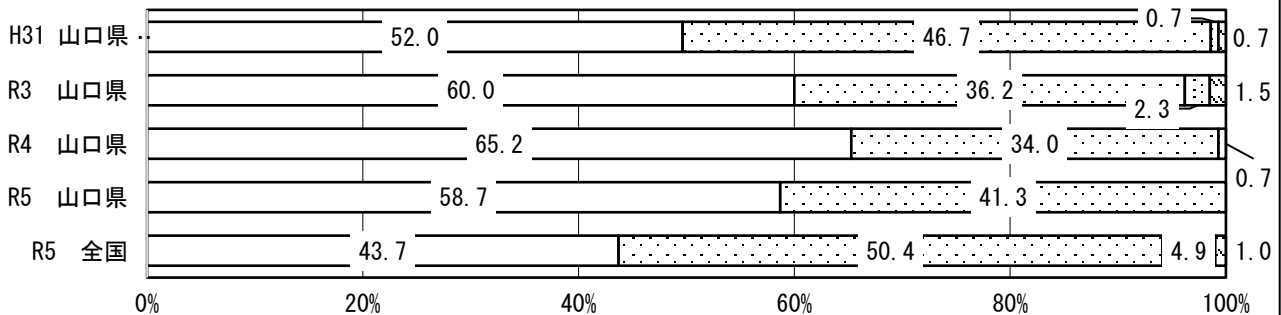
【小学校】 6 6 学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象である第6学年の児童に対する授業の中で、児童の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫等）を行いましたか

□よく行った □どちらかといえば、行った □あまり行わなかった □全く行わなかった



【中学校】 7 4 学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象である第3学年の生徒に対する授業の中で、生徒の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫等）を行いましたか

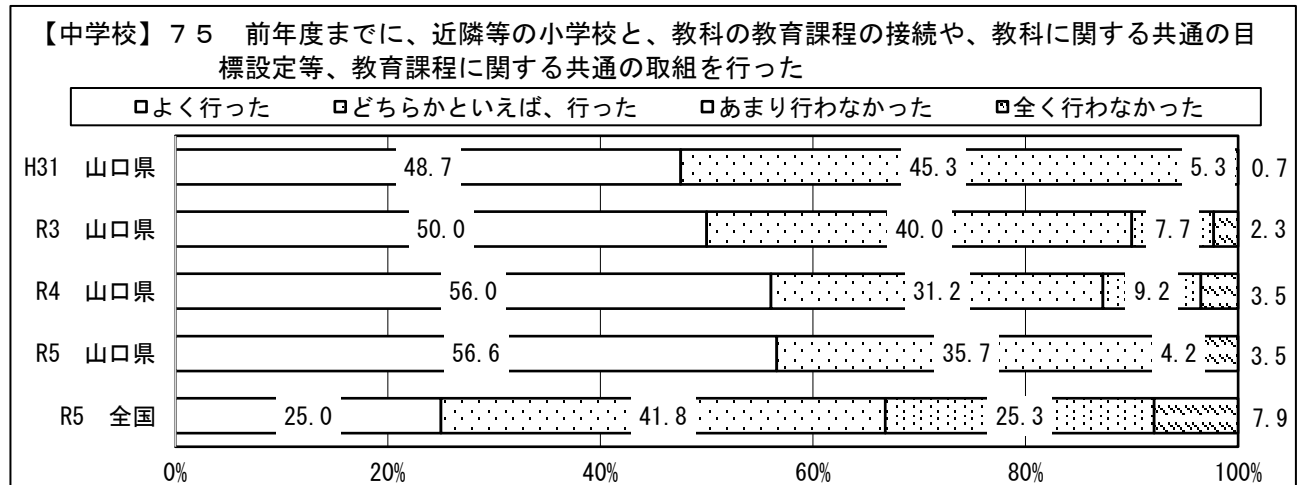
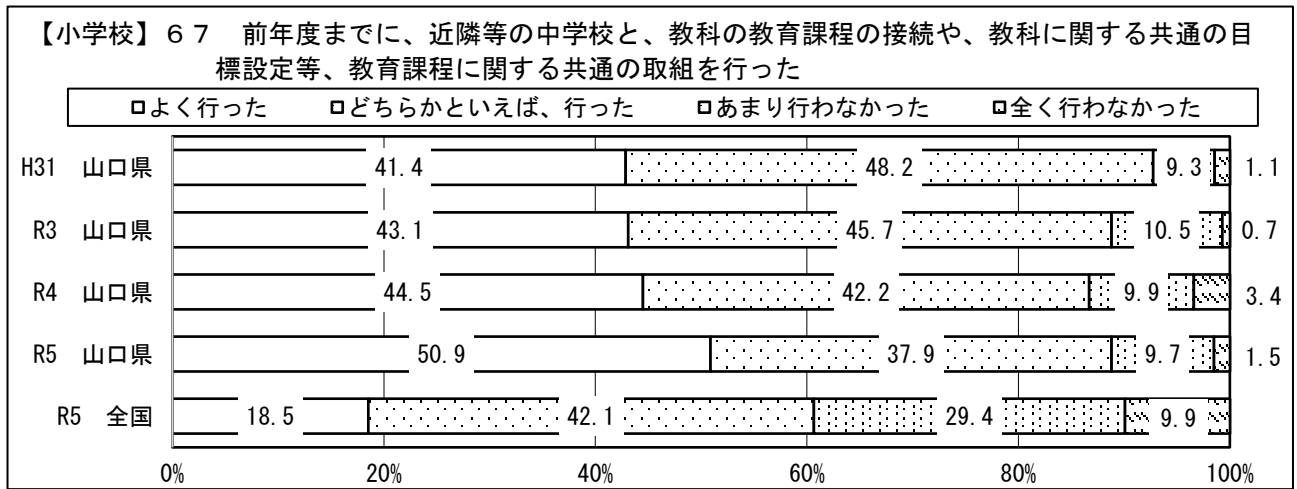
□よく行った □どちらかといえば、行った □あまり行わなかった □全く行わなかった



③ 学校・家庭・地域との連携

ア 教育課程に関する小・中学校共通の取組

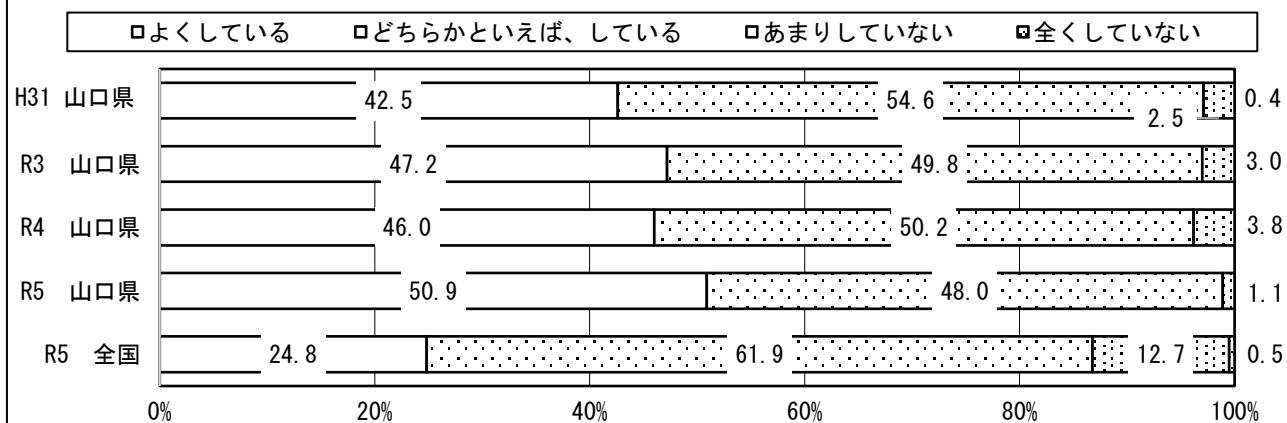
○ 近隣等の小（中）学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った小中学校の割合は、全国と比べて高く、増加傾向にある。



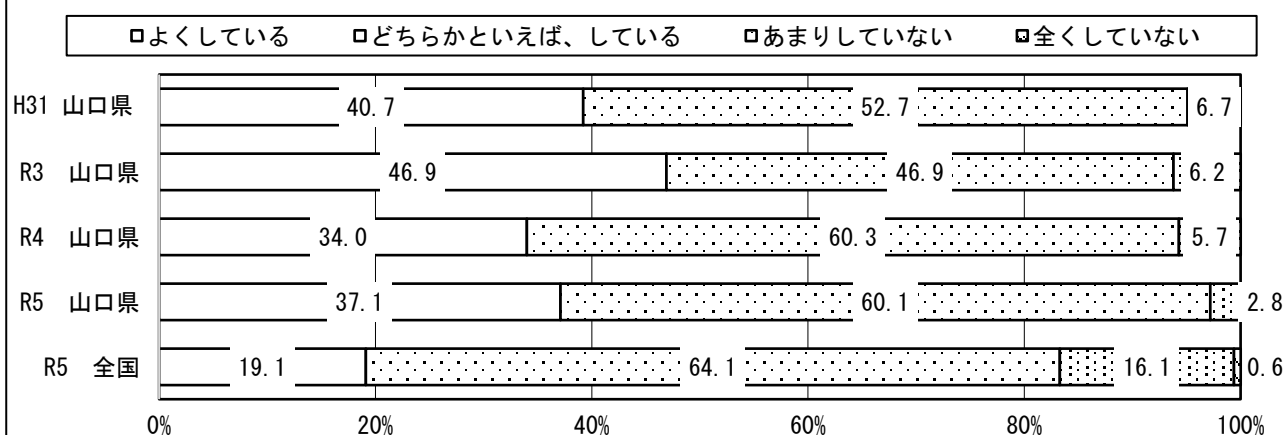
イ 教育課程の趣旨について家庭や地域と共有

○ 教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っている小中学校の割合は、全国と比べて高い。

【小学校】 7 1 教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか



【中学校】 7 9 教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか

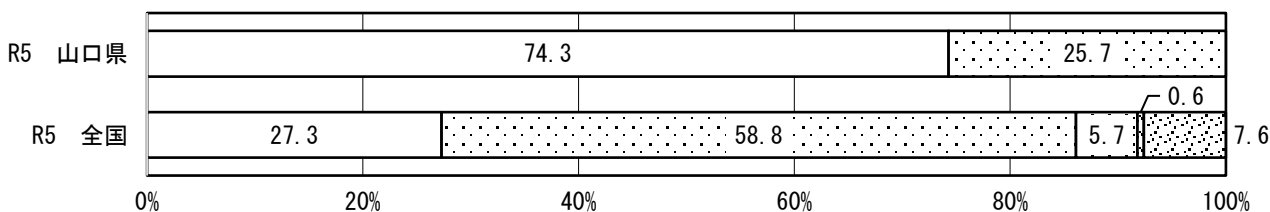


ウ 学校・地域・保護者の相互理解

- コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者と相互理解を深めたと考える小中学校の割合は、全国と比べて高い。

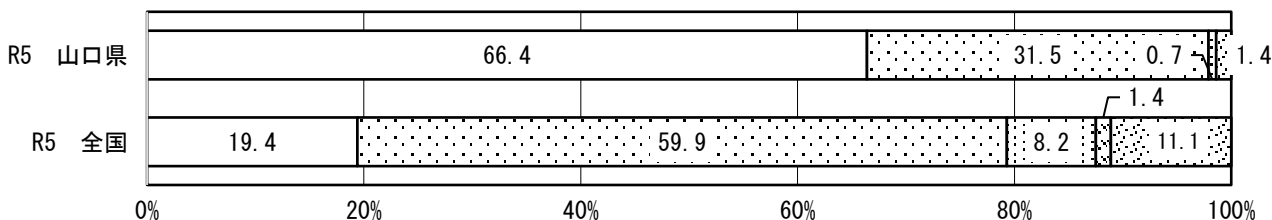
【小学校】 74 コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか

- そう思う □ どちらかといえば、そう思う □ どちらかといえば、そう思わない
 □ そう思わない □ 取組を行わなかった



【中学校】 82 コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか

- そう思う □ どちらかといえば、そう思う □ どちらかといえば、そう思わない
 □ そう思わない □ 取組を行わなかった

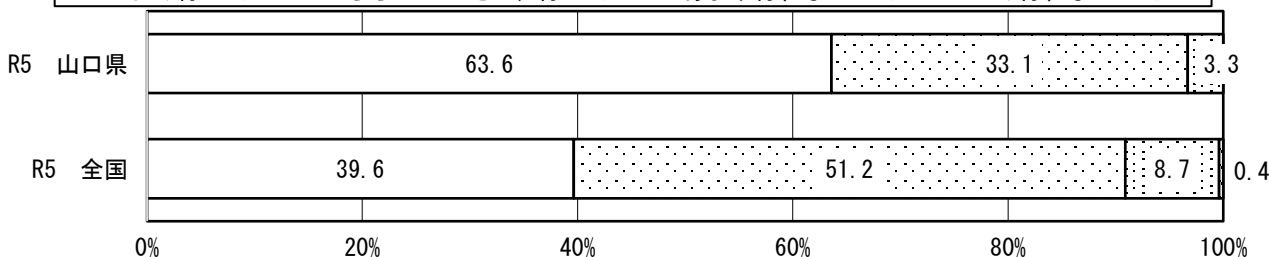


エ 家庭学習の課し方についての共通理解

- 家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員で共通理解を図った小中学校の割合は、全国と比べて高い。

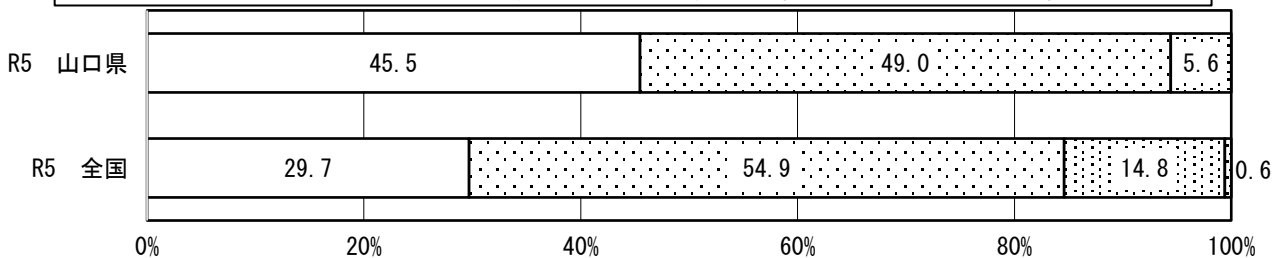
【小学校】 75 家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員での共通理解を図る

- よく行った □ どちらかといえば、行った □ あまり行わなかった □ 全く行わなかった



【中学校】 83 家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員での共通理解を図る

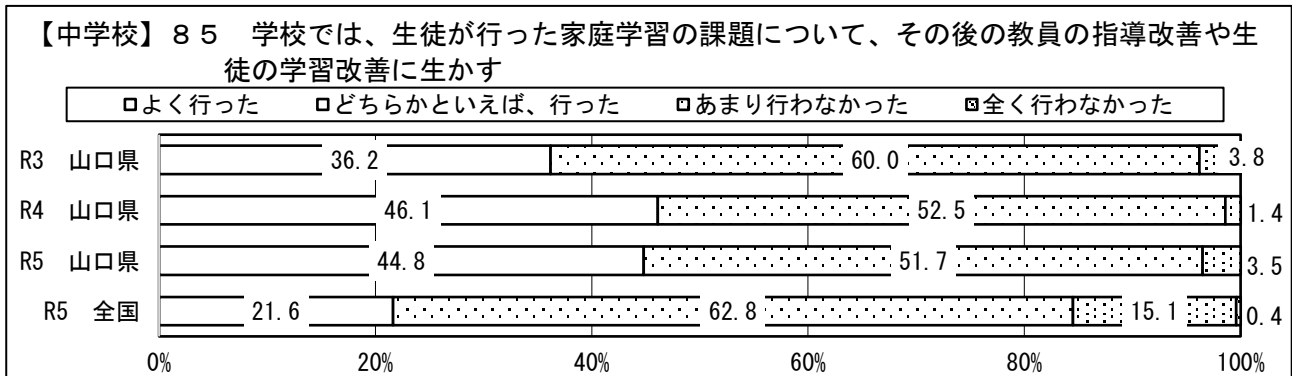
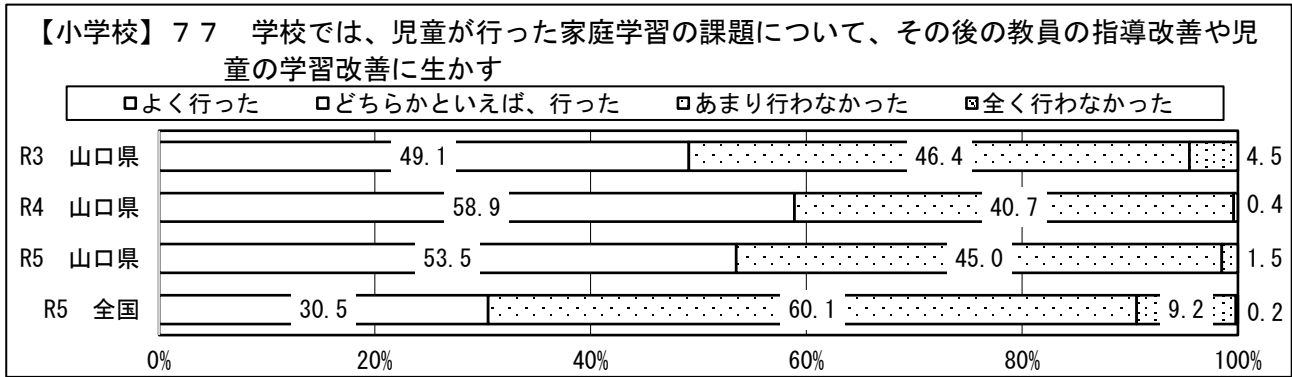
- よく行った □ どちらかといえば、行った □ あまり行わなかった □ 全く行わなかった



④ 家庭学習・調査結果の活用

ア 児童生徒が行った家庭学習の課題について、指導改善や学習改善に生かす取組

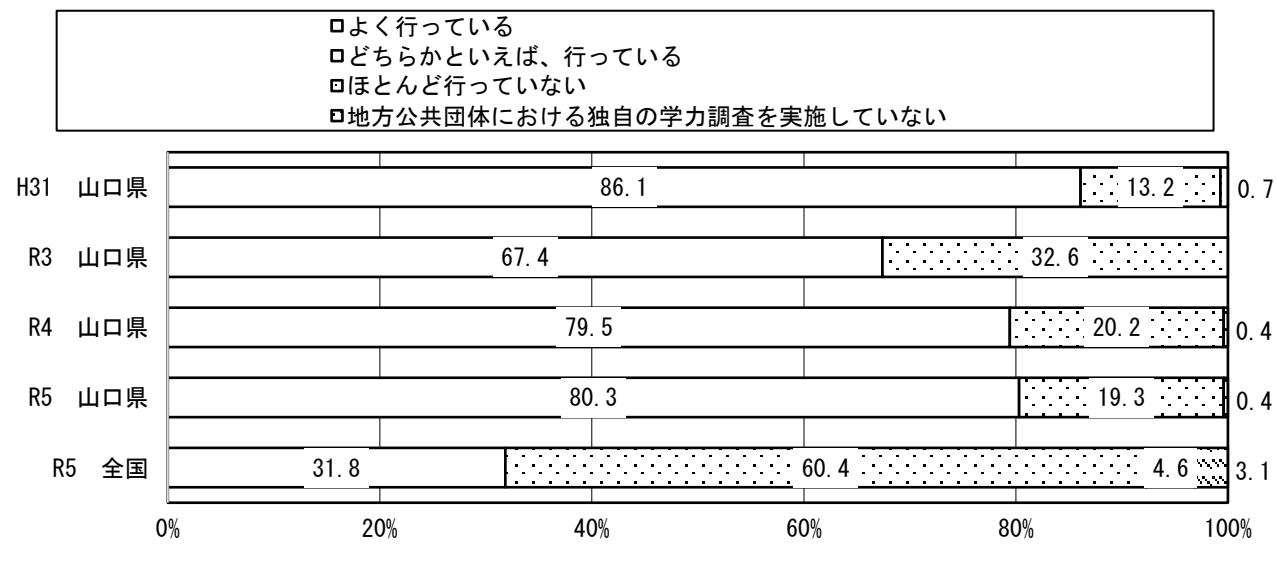
○ 児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かす小中学校の割合は、全国と比べて高いものの、前年度より減少している。



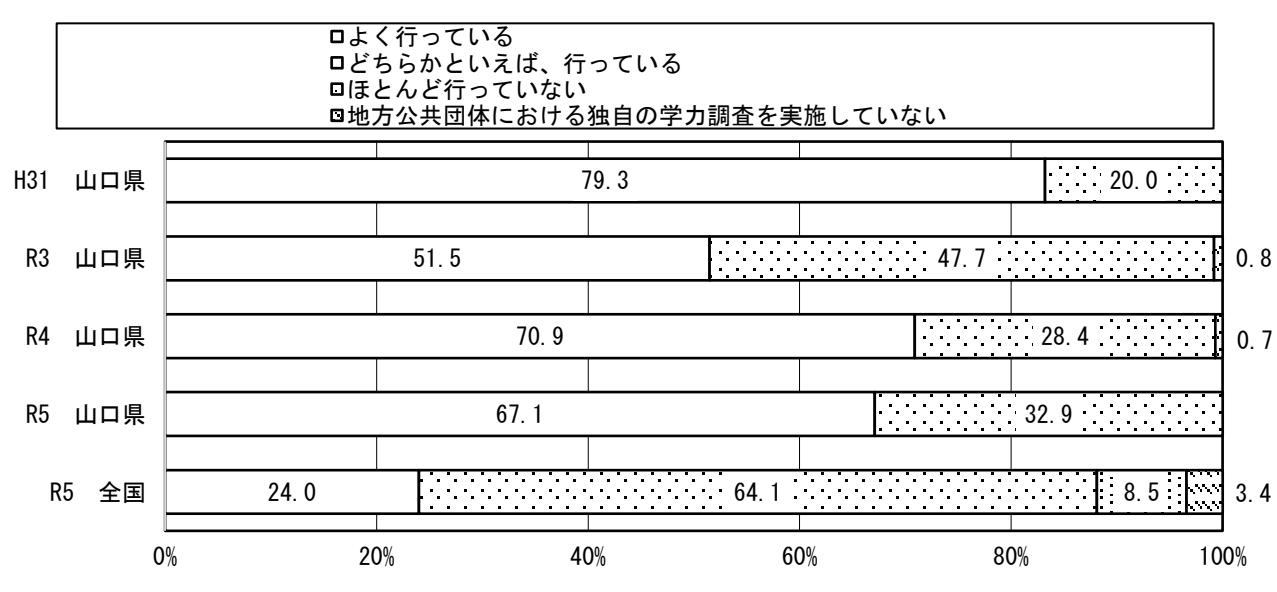
イ 全国学力・学習状況調査の問題の活用

- 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている小中学校の割合は、全国と比べて高い。

【小学校】 79 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている



【中学校】 87 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている



4 学力向上に向けた今後の取組

県教委、各市町教委、各学校が連携して、以下の二つに取り組む。

- ◆ 「やまぐち型地域連携教育」による家庭や地域との連携・協働を基盤とし、「学校の組織力の充実」「教員の授業力の向上」「学校・家庭・地域の連携力の強化」の三つの視点からの取組を推進するとともに、検証改善委員会からの客観的評価を受け、検証改善サイクルに取り組む。
- ◆ 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の更なる充実を図り、児童生徒一人ひとりの確かな学力の定着と向上を図る。

※今回の調査結果を踏まえ、特に重点的に取り組む内容のみ記載

学校の組織力の充実

- ◆ 「やまぐち学習支援プログラム」の活用を軸にした組織的な指導体制づくり
 - ・多くの大人がかかわり、個に応じる「学び直し」の場づくりの促進
 - ・「やまぐち学習支援プログラム」基本プリントの解説作成による学力課題の解決・きめ細かな指導の充実
 - ・「やまぐち学習支援プログラム活用推進研修会」における好事例（組織的な取組、個に応じた指導など）の展開による各校の取組の促進
- ◆ 全校体制による学力課題の焦点化と年間2回の検証改善サイクルの活用
 - ・誤答分析を基にした学力課題の焦点化と解決の方策について、一連の流れを例示することによる各校の取組の促進
 - ・C B Tを活用した解答状況・解答分類の提供によるスピード感をもった指導改善の促進

教員の授業力の向上

- ◆ 「振り返り」に注目し、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善
 - ・児童生徒自身が、授業で分かった点やよく分からなかった点を見直し、自らの学習活動を振り返って、次の学習にいかそうとする場面（振り返り）を重視した授業改善の推進
 - ・「授業づくりと学習評価の手引き」の改訂・活用促進による授業力の向上強化
 - ・ICTの活用等による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な実現
- ◆ 学ぶ姿勢と実践場面を重視した研修
 - ・研修受講者が自らの研修をマネジメントする仕組みづくり
 - ・研修後の実践場面における指導助言の充実

学校・家庭・地域の連携力の強化

- ◆ コミュニティ・スクールを核とした「学力向上」の取組の強化
 - ・多くの大人が児童生徒の学びを価値付け、学習意欲の向上をめざす日常的なユニット型研修等の推進
 - ・「学校・地域連携カリキュラム」に基づき、学校の学びと地域や社会をつなげ、学びの意味の実感を促す教育活動の推進
 - ・学校運営協議会における、学力課題の共有や課題解決に向けた熟議の促進
 - ・学校・家庭・地域における学力に関する情報共有に基づく学習習慣の確立
- ◆ 異校種間連携の充実による学習環境づくり
 - ・中学校区における学力向上の取組に関する連携・協働
 - ・「学校・地域連携カリキュラム」見直し等による小中一貫教育の推進
 - ・授業力向上実践研究校、小中高連携英語教育推進校・連携校などによる研究の推進